

CA Business Service Insight

インストールガイド

8.3



このドキュメント（組み込みヘルプシステムおよび電子的に配布される資料を含む、以下「本ドキュメント」）は、お客様への情報提供のみを目的としたもので、日本 CA 株式会社（以下「CA」）により随時、変更または撤回されることがあります。本ドキュメントは、CA が知的財産権を有する機密情報であり、CA の事前の書面による承諾を受けずに本書の全部または一部を複写、譲渡、変更、開示、修正、複製することはできません。

本ドキュメントで言及されている CA ソフトウェア製品のライセンスを受けたユーザは、社内でユーザおよび従業員が使用する場合に限り、当該ソフトウェアに関連する本ドキュメントのコピーを妥当な部数だけ作成できます。ただし、CA のすべての著作権表示およびその説明を当該複製に添付することを条件とします。

本ドキュメントを印刷するまたはコピーを作成する上記の権利は、当該ソフトウェアのライセンスが完全に有効となっている期間内に限定されます。いかなる理由であれ、上記のライセンスが終了した場合には、お客様は本ドキュメントの全部または一部と、それらを複製したコピーのすべてを破棄したことを、CA に文書で証明する責任を負いません。

準拠法により認められる限り、CA は本ドキュメントを現状有姿のまま提供し、商品性、特定の使用目的に対する適合性、他者の権利に対して侵害のないことについて、黙示の保証も含めいかなる保証もしません。また、本ドキュメントの使用に起因して、逸失利益、投資損失、業務の中断、営業権の喪失、情報の喪失等、いかなる損害（直接損害か間接損害かを問いません）が発生しても、CA はお客様または第三者に対し責任を負いません。CA がかかる損害の発生の可能性について事前に明示に通告されていた場合も同様とします。

本ドキュメントで参照されているすべてのソフトウェア製品の使用には、該当するライセンス契約が適用され、当該ライセンス契約はこの通知の条件によっていかなる変更も行われません。

本書の制作者は CA および CA Inc. です。

「制限された権利」のもとでの提供：アメリカ合衆国政府が使用、複製、開示する場合は、FAR Sections 12.212、52.227-14 及び 52.227-19(c)(1)及び(2)、ならびに DFARS Section 252.227-7014(b)(3) または、これらの後継の条項に規定される該当する制限に従うものとします。

Copyright © 2014 CA. All rights reserved. 本書に記載されたすべての商標、商号、サービス・マークおよびロゴは、それぞれの各社に帰属します。

CA への連絡先

テクニカル サポートの詳細については、弊社テクニカル サポートの Web サイト (<http://www.ca.com/jp/support/>) をご覧ください。

目次

第 1 章: パッケージ コンテンツ	9
第 2 章: CA Business Service Insight インストールの前提条件	11
ハードウェア前提条件.....	11
サーバソフトウェアの前提条件.....	12
データベース サーバの前提条件.....	12
アプリケーション サーバの前提条件.....	14
Web サーバの前提条件.....	16
Oracle 設定.....	20
第 3 章: CA Business Service Insight をインストールする方法	23
前提条件の確認.....	24
データベースの手動作成.....	25
インストールおよび地域の設定.....	27
CA Business Service Insight サーバのインストール.....	27
インストール ダイアログ ボックス.....	29
追加のアプリケーション サーバのインストール.....	33
Windows Server 2008 R2 サーバ設定.....	34
多層環境の設定.....	35
アダプタ リスナのインストール.....	37
インストールの完了.....	37
CA Business Service Insight サービス.....	39
第 4 章: CA Business Service Insight クライアント パック インストール	43
コンポーネント.....	43
クライアントソフトウェアの前提条件.....	44
CA Business Service Insight クライアントのインストール.....	46
サイレントインストール.....	46
クライアント応答ファイルの記録.....	47
クライアント応答ファイルの例.....	48
サイレント モードでのクライアントのインストールの実行.....	48

第 5 章: CA Business Service Insight をインストールして高可用性を確保する方法	49
前提条件の確認.....	52
データベースの手動作成.....	53
インストールおよび地域の設定.....	55
CA Business Service Insight サーバのインストール.....	56
インストール ダイアログ ボックス.....	57
Windows Server 2008 R2 サーバ設定.....	61
サーバの設定.....	62
アプリケーション サーバの設定.....	62
Web サーバの設定.....	65
アダプタ サーバの設定.....	66
インストールの完了.....	67
第 6 章: CA Business Service Insight のアップグレード方法	71
前提条件の確認.....	73
ファイルとフォルダのバックアップ.....	74
アップグレードの準備.....	75
Web サイトの存在確認.....	75
CA Business Service Insight のアップグレード.....	76
アップグレード ダイアログ ボックス.....	77
アップグレードの完了.....	80
プロキシプレフィックスの更新.....	81
API の更新.....	82
第 7 章: 旧バージョンからのアップグレード	83
第 8 章: 高可用性展開をアップグレードする方法	85
前提条件の確認.....	86
アップグレードの準備.....	86
サーバのアップグレード.....	87
アプリケーション サーバのアップグレード.....	88
Web サーバのアップグレード.....	89
アダプタ サーバのアップグレード.....	89
サーバの設定.....	90
アプリケーション サーバの設定.....	90
Web サーバの設定.....	93

アダプタ サーバの設定.....	93
アップグレードの完了.....	94
付録 A: 通信プロトコルの概要	95
プロセス/コンポーネント.....	95
ポートおよびプロトコル.....	97
付録 B: CA Business Service Insight データベースを Linux プラットフォームに インストールする方法	103
アクティブなリスナの追加.....	104
TNS 名の設定.....	105
インストールの準備.....	107
データベースのインストール.....	109
付録 C: MS Word アドオンのインストール	111
付録 D: CA Technologies のデータベース オブジェクト用の命名規則ポリ シー	113

第 1 章: パッケージ コンテンツ

CA Business Service Insight をインストールする前に、このテーブルに示される必要なすべてのフォルダがあることを確認します。

フォルダ名	説明
サーバ	サーバインストールフォルダ。
クライアント	クライアントインストールフォルダ。
前提条件	インストールまたは CA Business Service Insight へのアップグレードの前に必要とされるファイルが含まれるフォルダ。
セットアップ データベース	CA Business Service Insight データベース インスタンスのインストールまたはアップグレードに使用されるファイル、およびその他のデータベース ツールが含まれるフォルダ。セットアップフォルダを参照してください。
サイレント	サイレント インストール応答ファイルの例が含まれるフォルダ。

第 2 章: CA Business Service Insight インストールの前提条件

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

[ハードウェア前提条件 \(P. 11\)](#)

[サーバソフトウェアの前提条件 \(P. 12\)](#)

ハードウェア前提条件

以下の表に、CA Business Service Insight サーバおよび必要なネットワーク接続性での最小および推奨ハードウェア要件を示します。

コンポーネント	最小値	推奨
プロセッサ	デュアル 2.4GHz インテル コア または同等のプロセッサ	クアッド 2.4GHz インテル コア または同等のプロセッサ
メモリ	4GB RAM	8GB RAM
ネットワーク	100Mbps Fast Ethernet 接続	1Gbps Fast Ethernet

以下の表は、CA Business Service Insight サーバの最小および推奨ストレージ要件を示しています。

コンポーネント	最小値	推奨値
データベース サーバ	40GB	120GB*
アプリケーション サーバ	18GB	40GB*
Web サーバ	18GB	40GB*

注:

- RAID 5 コントローラ、または同等の高可用性/高スループット ディスク構成をお勧めします。
- データベース容量は、メトリック数、Raw データのボリューム、履歴データの保存期間など、複数のパラメータによって異なります。

サーバソフトウェアの前提条件

以下のセクションでは、データベース、アプリケーション、Web サーバのソフトウェア前提条件について説明します。アプリケーションサーバと Web サーバには特定の Windows 役割が必要です。すべてのサーバがすべての前提条件に適合していることを確認します。

CA Business Service Insight では、すべてのサービスおよびエンティティに対して以下のプロパティが設定された専用アカウントが必要です。

- アカウントはドメインアカウントです。
- アカウントはローカル管理者グループのメンバです。
注: アカウントにドメイン管理者権限は必要ありません。
- すべての CA Business Service Insight サーバに対して同じアカウントを使用します。
- ユーザ名およびパスワードを記録します。

データベース サーバの前提条件

インストール前に、データベース サーバに関して以下の前提条件を確認します。

重要: CA Business Service Insight は統合データベースをサポートしません。統合データベースは将来的にアップグレードが必要になり、一部の機能で障害が発生します。

CA Business Service Insight は、以下の Oracle データベース バージョンの Standard および Enterprise エディションでのインストールをサポートします。

- 11.2.0.4
- 11.2.0.3

注: CA Business Service Insight が Oracle DB 11.2.0.3 をサポートするのは、Oracle クライアントのバージョンが 11.2.0.4 の場合のみです。

データベース インストール スクリプトは、以下のプラットフォームでテストされました。

- Microsoft Windows 2003 (32 ビットおよび 64 ビット)。
- Microsoft Windows 2008 (32 ビットおよび 64 ビット)。
- Microsoft Windows 2008 R2 Enterprise エディション SP1 (64 ビット)。
- Unix-Sun Solaris 10.5。
- Linux

重要: 単一層インストールの場合は、データベース サーバおよび Oracle データベースの 32 ビットバージョンを使用します。

- CA Business Service Insight をインストールする前に、Oracle サーバ、Oracle クライアント、およびデータベース接続設定コンポーネントが正しくインストールおよび設定されていることを確認します。次に、OLEDB を使用してデータベースへの接続を確立し、インスタンスを認識するようにリスナが設定されていることを確認します。
 - TNSnames.ora はすべての CA Business Service Insight サーバに存在する必要があります。
 - Listener.ora は CA Business Service Insight DB サーバに存在する必要があります。
- 新しいデータベースについては、AL32UTF8 または WE8MSWIN1252 を選択できます。

注: AL32UTF8 文字セットを選択すると、西ヨーロッパ以外の文字を格納できるようになりますが、より多くのスペースが必要になります。

- Oracle バージョン 11 の場合は、_optimizer_group_by_placement パラメータが FALSE であることを確認します。

注: 以下のコマンドには SYS ユーザ権限が必要です。

- 現在の値を取得するには、以下のクエリを実行します。

```
SELECT a.kspinm Param , c.kspstvl InstanceVal
FROM x$kspai a , x$kspsv c
WHERE a.kspinm = '_optimizer_group_by_placement'
AND a.indx = c.indx
```

- パラメータを false に設定するには、以下のコマンドを実行します。

```
alter system set "_optimizer_group_by_placement" = FALSE
```

RAC データベースへのインストール

CA Business Service Insight と RAC の間には互換性があります。ただし、インストールの一部として RAC は作成されません。RAC を使用するには、以下のいずれかのオプションを選択します。

- CA の InstallDB スクリプトを使用して、製品をインストールします。RAC をサポートするようにインスタンスを再設定し、別のインスタンスを追加して RAC データベースを作成します。
- 独自の RAC を作成し、インスタンスを作成せずに CA のスクリプトを実行します。CA のスクリプトは CA Business Service Insight 関連のアクションのみを実行します。

Oracle がサポートされるプラットフォームの詳細については、Oracle のドキュメントを参照してください。

アプリケーション サーバの前提条件

インストール前に、アプリケーション サーバに関して以下の前提条件を確認します。

オペレーティング システム

以下の表は、サポートされているオペレーティング システムおよび関連する要件の一覧を示しています。

OS バージョン	パッチ レベル	ビット数
Windows Server 2003 Standard または Enterprise エディション	SP2	32 ビット
Windows Server 2008 Standard または Enterprise エディション	SP2	32 ビットまたは 64 ビット
Windows Server 2008 R2 Enterprise エディション	SP1	64 ビット
Windows Server 2012		64 ビット

注: Windows 2008 および Windows 2012 プラットフォームでは、役割および機能の設定が必要です。詳細については、「[必要な Windows の役割と機能 \(P. 18\)](#)」を参照してください。

- ASP.NET をインストールする必要があります。

注: CA Business Service Insight は .Net Framework 4.5 をサポートしません。Windows 2012 の場合、.Net 4.5 がデフォルトです。.Net Framework を 4.5.1 または 4.5.2 に更新します。

- CA Business Service Insight をインストールする前に、Microsoft Message Queuing (MSMQ) をインストールし、設定します。

MSMQ は以下のポートを使用します。

- TCP : 1801
 - RPC : 135、2101/2112、2103/2114、2105/2116
 - UDP : 3527、1801
- JDK 1.7.0.25 環境 (32 ビット) は自動的にインストールされています。
 - (オプション) ACE2 を使用するシステムの場合は、CA Business Service Insight はアプリケーションサーバとして JBoss を使用します。次の ACE2 ポートが、JBoss が実行されるサーバに対応できることを確認します: 4073、1298、1299、8283、4744、4645、3728、19201、1361、1363、8293、8280、1300、5546、4657。
 - (オプション) RawDataTools には Microsoft Visual C++ 2010 ランタイム ライブラリ (x86) が必要です。このコンポーネントは Microsoft からダウンロードします。

多層インストールの場合

- すべてのアプリケーションサーバおよび Web サーバが同じ Windows ドメインに存在する必要があります。
- MSMQ を Active Directory Integration モード (ドメインモードとも呼ばれる) でインストールします。
- アプリケーションと Web サーバを時間同期します。

必要な Windows の役割と機能

Application Server Windows 役割がアプリケーション サーバで必要です。

以下の Windows 機能がアプリケーション サーバの役割 Application Server で必要です。

- Application Server Foundation (Windows 2008 SP2 でのみ)
- .NET Framework 3.5.1 (Windows 2008 R2 でのみ)
- Windows プロセス有効化サービス サポート
 - Message Queuing 有効化
 - HTTP 有効化
- 分散トランザクション
 - WS-Atomic トランザクション

多層インストールの場合は、MSMQ および MSMQ のすべてのサブコンポーネントをプライマリ アプリケーション サーバにインストールします。この設定では MSMQ を AD またはドメイン モードでインストールします。このプロセスはドメイン権限を必要とする場合があります。

注: Web サーバ (IIS) サポート機能を選択しない場合、インストール中に警告画面が表示されます。警告を無視し、インストールを続行します。

Web サーバの前提条件

インストール前に Web サーバに関して以下の前提条件を確認します。

オペレーティング システム

以下の表は、サポートされているオペレーティング システムおよび関連する要件の一覧を示しています。

OS バージョン	パッチレベル	ビット数	Web サーバ	追加設定
Windows Server 2003 Standard および Enterprise エディション	SP2	32 ビット	IIS 6.0	IIS (Web サーバ)

Windows Server 2008 Standard および Enterprise エディション	SP2	32 ビットまたは 64 ビット	IIS 7.0 または 7.5	IIS 6 互換モードを備えた IIS (Web サーバ)
Windows Server 2008 Server R2 Enterprise エディション	SP2	64 ビット	IIS 7.0 または 7.5	IIS 6 互換モードを備えた IIS (Web サーバ)
Windows Server 2012		64 ビット	IIS 8.0	IIS 6 互換モードを備えた IIS (Web サーバ)

注: Windows 2008 および Windows 2012 プラットフォームでは、役割および機能の設定が必要です。詳細については、「[必要な Windows の役割と機能 \(P. 18\)](#)」を参照してください。

- Microsoft Windows 2008 Server R2 では、Active Server Pages 拡張を Web サーバ上で [許可] に設定する必要があります。
- この製品は IP バージョン 6.0 トレラントです。
- ASP.NET をインストールする必要があります。

注: CA Business Service Insight は .Net Framework 4.5 をサポートしません。Windows 2012 の場合、.Net 4.5 がデフォルトです。.Net Framework を 4.5.1 または 4.5.2 に更新します。

- CA Business Service Insight をインストールする前に、Microsoft Message Queuing (MSMQ) をインストールし、設定します。

MSMQ は以下のポートを使用します。

- TCP : 1801
- RPC : 135、2101/2112、2103/2114、2105/2116
- UDP : 3527、1801
- JDK 1.7.0.25 環境 (32 ビット) は自動的にインストールされています。
- JBoss 7 は自動的にインストールされ、以下のコンポーネントが含まれます。
 - JBoss Messaging 1.4.5
 - JBoss Remoting 2.2.3 SP1

注: コンテンツ転送では JBoss アプリケーション サーバ上の以下のポートが使用されます: 1198、1199、1200、1201、1261、1262、3628、3973、4544、4545、4548、5546、4557、8180、8183、8193、19101。

- ODAC 11.2 リリース 4 32 ビット (ODAC112040Xcopy_32bit) をインストールします。

ODAC をインストールするには、以下のコマンドを使用します。

```
Install.bat all c:¥unique_installation_path¥odac myhome true
```

多層インストールの場合

- アプリケーションと Web サーバが別のマシンである場合、各サーバが同じ Windows ドメインに存在する必要があります。
- MSMQ を Active Directory Integration モード (ドメイン モードとも呼ばれる) でインストールします。
- アプリケーションと Web サーバの時間を同期します。

必要な Windows の役割と機能

以下の Windows 役割が Web サーバで必要です。

- アプリケーション サーバ
- Web サーバ (IIS)

以下の Windows 機能が Web サーバの役割 Application Server で必要です。

- Web サーバ (IIS) サポート
- COM+ ネットワーク アクセス
- Windows プロセス有効化サービス サポート
 - Message Queuing 有効化
 - HTTP 有効化
- 分散トランザクション
 - WS-Atomic トランザクション

多層インストールの場合は、MSMQ および MSMQ のすべてのサブコンポーネントをプライマリ アプリケーション サーバにインストールします。この設定では MSMQ を AD またはドメイン モードでインストールします。このプロセスはドメイン権限を必要とする場合があります。

以下の Windows 機能が Web サーバの Web サーバ (IIS) 役割で必要です。

- 「HTTP 共通機能」グループのすべてのサービス
- 「アプリケーション開発」グループのすべてのサービス

- 健全性と診断
 - HTTP ログ機能
 - ログツール
 - 要求監視
 - トレース
- セキュリティ
 - ダイジェスト認証
 - クライアント証明書マッピング認証
 - IIS クライアント証明書マッピング認証
 - URL 認可
 - 要求のフィルタリング
 - IP およびドメインの制限
- Performance グループのすべてのサービス
- 管理ツール グループのすべてのサービス

Windows 2012 には、以下の追加機能が必要です。

- ASP.NET 4.5
- WCF サービス

Oracle 設定

1 層インストールの場合

- CA Business Service Insight をインストールする前に、Oracle サーバとデータベース接続設定コンポーネント (TNSnames.ora や listener.ora など) をインストールし、設定します。次に、OLEDB を使用してデータベースへの接続を確立し、作成するインスタンスを認識するようにリスナが設定されていることを確認します。
 - TNSnames.ora と Listener.ora がデータベース サーバに存在する必要があります。
 - Windows 32 ビット システムでは、TNS_ADMIN キーが以下のレジストリパスに存在する必要があります。
HKLM¥SOFTWARE¥
 - Windows 64 ビット システムでは、以下のパスを使用します。
HKLM¥SOFTWARE¥Wow6432Node¥

専用データベース サーバのある環境の場合

- CA Business Service Insight をインストールする前に、Oracle Client と Oracle OLEDB ドライバをインストールします。
- Oracle クライアントは 32 ビットにする必要があります。
- Oracle クライアントとデータベース接続設定コンポーネントを設定し、OLEDB を使用してデータベースへの接続を確立します。
 - TNSnames.ora がすべてのサーバに存在し、そのファイルに BSI データベースの TNSname が定義されている必要があります。
 - Listener.ora がデータベース サーバに存在する必要があります。
 - Windows 32 ビット システムの場合、TNS_ADMIN キーがレジストリパス HKLM¥SOFTWARE¥ にある必要があります。
Windows 64 ビット システムの場合、このパスは HKLM¥SOFTWARE¥Wow6432Node¥ です。

- Oracle OLEDB Provider がアプリケーションサーバにインストールされている必要があります。バージョンは、Oracle データベースソフトウェアのバージョンと同じかそれ以降である必要があります。
 - 既存の Oracle クライアントに Oracle OLEDB Provider を追加する場合、既存の Oracle ホームにインストールします。Oracle OLEDB Provider のインストールに関するサポートは、CA Technologies サポートチームにお問い合わせください。
 - CA Business Service Insight アプリケーションサーバ NLS_LANG 設定はデータベース NLS_LANG 設定と同一である必要があります。
 - CA Business Service Insight は以下の Oracle 11 の Standard または Enterprise エディションバージョン 11.2.0.3 をサポートします。

第 3 章: CA Business Service Insight をインストールする方法

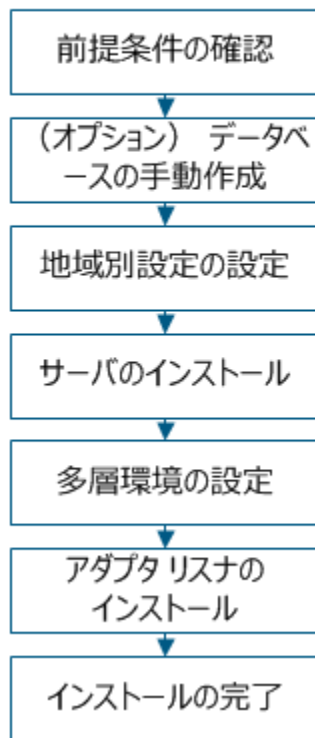
システム管理者には、CA Business Service Insight を展開する責任があります。CA Business Service Insight を多層または単一層環境に展開できます。

このシナリオを使用し、プロセスについて段階的に説明します。

CA Business Service Insight のインストール方法



システム管理者



1. [前提条件の確認](#) (P. 24)
2. (オプション) [データベースの手動作成](#) (P. 25)
3. [地域別設定の設定](#) (P. 27)
4. [サーバのインストール](#) (P. 27)
5. [多層展開の設定](#) (P. 35)
6. [アダプタリスナのインストール](#) (P. 37)
7. [インストールの完了](#) (P. 37)

前提条件の確認

正常にインストールするためには、関連する前提条件を確認します。前提条件に関する完全な情報については、「[CA Business Service Insight インストールの前提条件](#) (P. 11)」を参照してください。

データベースの手動作成

Windows 以外のサーバで CA Business Service Insight データベースをセットアップするには、手動でデータベースを作成します。

CA のデフォルト設定を使用しない場合は、[CA Technologies のデータベースオブジェクト用の命名規則ポリシー \(P. 113\)](#)を印刷します。ユーザのデータベース命名規則が CA Technologies のポリシーと異なる場合、インストールの前にフォームに記入して CA サポートにお問い合わせください。

次の手順に従ってください:

1. インストール CD の `Server\program files\CA\Cloud Insight\Setup\InstallDB` にあるインストールファイルを見つけて、このファイルを `%OBLICORE_ROOT%\Setup\InstallDB` にコピーします。
 - (Windows) Main.bat
 - (UNIX) Main.sh
2. `%OBLICORE_ROOT%\Setup\InstallDB` にある `start_parameter.ini` 内のパラメータを更新します。

OBLICORE_ROOT

セットアップによってデータベース名でフォルダが作成されるデータベースの場所を指定します。

重要: データベース作成スクリプトを実行する前に、ルートフォルダを作成します。

DB_NAME

データベース インスタンスの名前を指定します。

制限: 1 ~ 8 文字

ORACLE_HOME

Oracle ホームの場所を指定します。

注: サーバに複数のホームがある場合は、クライアントインストールではなく Oracle サーバインストールを参照するホームを使用します。

SYS_PASS

SYS ユーザパスワードを指定します。

OBLICORE_USER

CA Business Service Insight データベース エンティティを持つスキーマ ユーザの名前を指定します。

OBLICORE_PASS

スキーマ ユーザのパスワードを指定します。

OBLIDBADMIN_PASS

データベース インストールおよびマイグレーション中に使用される Oracle ユーザ `oblidbadmin` のパスワードを指定します。

DB_CHARSET

データベースの文字セット（UTF-8 または MSWIN1252）を指定します。

DB_SYNONYM

パブリック シノニムまたはプライベート シノニムを指定します。

例：

```
[DataBaseDetails]
OBLICORE_ROOT=c:%oblicore
DB_NAME=oblicore
ORACLE_HOME=c:%oracle%product%11.1.0%db_1
SYS_PASS=sys
OBLICORE_USER=oblicore
OBLICORE_PASS=oblicore
OBLIDBADMIN_PASS=oblidbadmin
DB_CHARSET=utf8
DB_SYNONYM=public
```

3. スクリプトを実行します。
4. パラメータが正しいことを確認します。
5. 画面上の指示に従います。
6. ログ ファイルでエラーを確認します。

データベースがセットアップされて、CA Business Service Insight サーバをインストールすることができます。

インストールおよび地域の設定

正常にインストールするには、サーバの地域設定を英語に変更します。英語以外の設定ではインストール後に問題が発生する可能性があります。

CA Business Service Insight サーバのインストール時に、以下のプロセスを使用します。

1. サーバの地域設定を英語（米国）に変更します。
2. サーバをインストールして再起動します。
3. 地域の設定を元に戻します。
4. サーバを再起動します。

CA Business Service Insight サーバのインストール

[set to your product name] システムを作成するには、サーバ コンポーネントをインストールします。

- データベースを自動的に作成しない場合は、「[データベースの手動作成 \(P. 25\)](#)」を参照してください。
- 標準インストール手順を使用するのは、4 台以上のサーバにシステムを分散させる必要がない場合、または CA サポートがこのオプションを推奨している場合です。

サーバ トポロジに複数のサーバが含まれる場合は、以下の表に従ってサーバ コンポーネントをインストールします。

トポロジタイプ (サーバ数)	説明	インストール 順序 (各サーバ)
1 台のサーバ	データベース、アプリケーション、および Web コンポーネントは同じサーバにインストールされます。	このサーバ上で Cloud_Insight_Server_8.3.exe を実行。
2 台のサーバ	2 台のサーバに分散	新規インストール
	<ul style="list-style-type: none"> ■ データベース コンポーネント ■ アプリケーションおよび Web コンポーネント 	<ul style="list-style-type: none"> ■ データベース サーバ上でデータベースを作成する。 ■ アプリケーションおよび Web サーバをインストールする。

トポロジタイプ (サーバ数)	説明	インストール 順序(各サーバ)
3 台のサーバ	3 台のサーバに分散 <ul style="list-style-type: none"> ■ データベース コンポーネント ■ アプリケーション コンポーネント ■ Web コンポーネント 	新規インストール <ul style="list-style-type: none"> ■ データベース サーバ上でデータベースを作成する。 ■ アプリケーション サーバをインストールする。 ■ Web サーバをインストールする。
4 台以上のサーバ	4 台以上のサーバに分散 <ul style="list-style-type: none"> ■ データベース コンポーネント ■ アプリケーション コンポーネント ■ Web コンポーネント ■ 追加のアプリケーション コンポーネント 	新規インストール <ul style="list-style-type: none"> ■ データベース サーバ上でデータベースを作成する。 ■ アプリケーション サーバをインストールする。 ■ Web サーバをインストールする。 ■ 追加のアプリケーション サーバをインストールする。

次の手順に従ってください:

1. インストールフォルダのコンテンツをインストール CD からインストールフォルダにコピーします。

デフォルト : C:\Program Files\CA \Cloud Insight\Setup または %ProgramFiles%\CA \Cloud Insight\Setup

重要: & および . をインストールディレクトリ名に含めないでください。

2. サーバディレクトリから Cloud_Insight_Server_8.3.exe を実行します。
3. インストール言語を選択し、[OK] をクリックします。
4. 前提条件コンポーネントを自動的にインストールするには、[インストール] をクリックします。

注: すべての必要なコンポーネントがすでにインストールされている場合、このダイアログボックスは表示されません。

インストールウィザードが起動します。

5. ウィザードに従ってインストールを完了します。
 - 組織名に特殊文字 (& など) が含まれる場合、各特殊文字の前に ^ を追加します。
たとえば、AB&C は AB^&C となります。
 - [セットアップタイプ] については、[標準] を選択します。
注: このサーバが追加のアプリケーションサーバである場合は、[カスタム] を選択して関連するサービスのみを選択します。詳細については、「[追加のアプリケーションサーバのインストール \(P. 33\)](#)」を参照してください。
 - トポロジに基づいて必要なサーバコンポーネントを選択します。
6. インストールダイアログボックスを完了します。
注: 選択する機能に関連するダイアログボックスのみが表示されます。詳細については、「[インストールダイアログボックス \(P. 29\)](#)」を参照してください。
[セットアップステータス] ウィンドウが表示され、インストールが開始されます。
注: Windows Server 2008 R2 インストールの場合、DocumentLoader エラーが発生しても無視します。
7. インストールウィザードが完了したら、コンピュータを再起動します。
注: Windows Server 2008 R2 では、サーバを再起動する前に追加設定が必要です。詳細については、「[Windows Server 2008 R2 サーバ設定 \(P. 34\)](#)」を参照してください。
必要に応じて、その他のサーバコンポーネントをインストールします。

インストールダイアログボックス

インストール時には、関連するダイアログボックスがウィザードに表示されます。以下の表に、選択するサーバコンポーネントに基づいて表示されるダイアログボックスの一覧を示します。

選択されたサーバ	関連するダイアログボックス
データベース + アプリケーション + Web	[ログオン情報]、[データベース作成]
アプリケーション + Web	[ログオン情報]、[データベース接続]

データベース	データベース作成
アプリケーション	[ログオン情報]、[データベース接続]
Web	[ログオン情報]、[ログサーバ設定]、[データベース接続]

以下の表に、インストールダイアログボックスおよび関連するパラメータと値の一覧を示します。

重要: ダブルダガー (‡) が付いているエントリにはダブルバイト文字を使用しないでください。

注: Oracle の命名規則では、特定の文字の使用がサポートされていません。ASCII などの特定の要件、および特殊文字やダブルバイト文字などの制限については、Oracle の資料を参照してください。

名前	パラメータ	値	メモ
データベース作成	Oracle バージョン ‡	デフォルト：サーバのデフォルト値	
	データベースファイルの場所 (DB File Location) ‡		
	データベースサーバ名 (DB server name) ‡		
	文字セット	UTF8 または MSWIN	
	シノニム	Public または Private	
データベース接続	Oracle バージョン	10 または 11	
	CA Business Service Insight データベースインスタンス TNS 名 ‡	データベースインスタンスの TNS 名。	TNSNAMES.ORA ファイルにある CA Business Service Insight の TNS 名を指定します。

名前	パラメータ	値	メモ
ログイン情報	ユーザ名 †	ユーザの名前。 デフォルト：インストールに使用するユーザアカウント。	ユーザおよびパスワードを専用ドメインアカウントに変更することをお勧めします。 新しいユーザを作成するには、[新規ユーザ]をクリックします。 リストからユーザを選択するには、[ユーザの選択]をクリックします。
	パスワード †	ユーザのパスワード	
新規ユーザの情報	ドメインまたはサーバ		このダイアログボックスで、新しい CA Business Service Insight ユーザを作成できます。
	グループ		
	ユーザ名 †		
	パスワード †		
	パスワードの確認 †		
ユーザの選択	オブジェクトタイプ		管理者ローカルグループに属しているユーザを選択する必要があります。
	場所		
ログサーバ環境設定	ログサーバネットワークアドレス	デフォルト：localhost	localhost は、Web サーバを含むすべてのサーバで有効です。 ログサーバがローカルホスト上にない場合は、アドレスを正しいサーバに変更します。 注：アドレスはログサーバのインストール先のアドレスである必要があります。

名前	パラメータ	値	メモ
	ログサーバネットワークポート	デフォルト：4040	
ネットワークパスワードの入力	ユーザ名		ドメインにログオンしていない場合、Microsoft 標準の [ネットワークパスワードの入力] ダイアログボックスが何度か表示されます。必要に応じて、有効なドメインユーザおよびパスワードを入力してドメインにアクセスします。
	パスワード		
サービス起動タイプ	サービス起動タイプ	自動または手動 既定値：手動	ログサーバサービスは常に [自動] に設定されています。
Web サイト設定	WWWRootfolder ‡	WWWRoot フォルダの場所 デフォルト：Web サイトが現在インストールされているフォルダ	
	SessionDataFolder ‡	SessionData フォルダの場所 デフォルト：インストールディレクトリ	
	SessionTimeout	デフォルト：300	

追加のアプリケーション サーバのインストール

多層環境のパフォーマンスを最適化するには、サービスを複数のアプリケーション サーバに分割します。

注: 追加のアプリケーション サーバによる最適なパフォーマンスを確保するには、オペレーティング システムの [サービス] ダイアログ ボックスを開いて、不要なコンポーネントをクリアまたは停止します。

コンポーネント	説明
アダプタ	アダプタ サービス オプション (テキスト ファイル、SQL、マネージャ、正規表現チェッカ) をインストールします。
アダプタ リスナ	アダプタ リスナをインストールします。 注: アダプタ リスナは1回のみインストールできます。
アラート	アラート サービスをインストールします。 注: アラートは2回以上インストールしないでください。
ダッシュボード エンジン	ダッシュボード エンジン サービスをインストールします。 注: ダッシュボード エンジン サービスは1回のみインストールできます。
ログ サーバ	ログ サーバ サービスをインストールします。
ペナルティ ライタ	ペナルティ サービスをインストールします。
PSL ライタ	計算エンジン サービスの1つのインスタンスをインストールします。
レポート スケジューラ	レポート スケジューラ サービスをインストールします。
ACE Engine on JBoss アプリケーション サーバ	ACE2 Manager を実行する JEE アプリケーション サーバ。
Tomcat 6	Apache Tomcat 6.0.32 サーバ 詳細については、 http://tomcat.apache.org を参照してください。
Oblisync on JBoss アプリケーション サーバ	[コンテンツ転送] 機能の実行を有効にします。
ScriptHost	スクリプト ホスト サービスをインストールします。 注: スクリプト ホスト サービスは1回しかインストールできません。

コンポーネント	説明
タスク ホスト	タスク ホスト サービスをインストールします。 注: タスク ホスト サービスは 1 回しかインストールできません。

Windows Server 2008 R2 サーバ設定

Windows Server 2008 R2 上でインストールを設定するには、アプリケーションサーバコンポーネントまたは Web サーバコンポーネントを含むすべてのサーバで以下のタスクを実行します。

次の手順に従ってください:

1. インストール ウィザードで再起動を求められた場合は、コマンドプロンプトを開きます。
 - a. [スタート] メニューの [ファイル名を指定して実行] をクリックします。
 - b. [ファイル名を指定して実行] ウィンドウで以下のコマンドを入力します。

```
C:%Windows%SysWOW64%cmd.exe
```

コマンドプロンプトが表示されます。

2. 以下のいずれかのコマンドを実行します。
 - サーバに Web サーバコンポーネントが含まれています。

```
cd %0G_HOME%bin
StringsLoader.exe -a <言語文字列 xml ファイルへのパス>
cd %0G_HOME%Setup%Migration%
DocumentLoader.exe
```

デフォルト パス :
C:%Inetpub%wwwroot%Oblicore%App_Data%Resources
 - サーバにアプリケーションサーバコンポーネントのみが含まれています。

```
cd %0G_HOME%bin
```

3. サーバを再起動します。

多層環境の設定

多層トポロジを使用するには、サーバを設定します。

次の手順に従ってください：

アプリケーション サーバおよび Web サーバ

1. ローカルネーミング構成ファイルに、正しいホスト名およびポートと共にサービスエイリアスが含まれていることを確認します。

ファイル名： \$ORACLE_HOME¥network¥admin¥TNSNAMES.ORA

デフォルトポート： 1521

例：

```
OBLICORE =
  (DESCRIPTION =
    (ADDRESS = (PROTOCOL = TCP)(HOST = server12.ca.com)(PORT = 1521))
    (CONNECT_DATA =
      (SERVER = DEDICATED)
      (SERVICE_NAME = oblicore)
    )
  )
```

Web サーバ

1. 分散トランザクションコーディネータサービスを開始します。
2. World Wide Web 発行サービスを開始します。
3. Oracle クライアントとデータベース接続設定コンポーネントを正しくインストールして設定し、OLEDB からデータベースへの接続を確立します。
 - a. TNSnames.ora をすべてのサーバにインストールし、設定します。
 - b. Listener.ora をデータベースサーバにインストールし、設定します。

データベースサーバ

1. リスナ構成ファイルが正しく設定され、このファイルが作成されるインスタンスを認識することを確認します。

ファイル名： \$ORACLE_HOME¥network¥admin¥LISTENER.ORA

例 :

```
SID_LIST_LISTENER =
(SID_LIST =
(SID_DESC =
(GLOBAL_DBNAME = OBLICORE)
(ORACLE_HOME = C:%app%Administrator%product%11.2.0%dbhome_1)
(SID_NAME = oblicore)
)
)

LISTENER =
(DESCRIPTION_LIST =
(DESCRIPTION =
(AADDRESS = (PROTOCOL = TCP)(HOST = server12.ca.com)(PORT = 1521))
(AADDRESS = (PROTOCOL = IPC)(KEY = EXTPROC1521))
)
)
```

2. コマンドプロンプト ウィンドウを開いて、以下のコマンドを実行します。

```
lsnrctl status
```

サービス サマリのリストが表示されます。

注: リストが表示されない場合は、以下のコマンドを実行します。

```
lsnrctl start
```

確認メッセージが表示されます。

3. `$ORACLE_HOME%network%admin%SQLNET.ORA` に以下の行が含まれていることを確認します。

```
SQLNET.AUTHENTICATION_SERVICES = (NTS)
```

4. Oracle クライアントとリスナ間の通信をテストするには、以下のコマンドを実行します。

```
Tnsping <tns_entry_name>
```

システムは "OK" を返し、応答時間が表示されます。

アダプタリスナのインストール

アダプタを有効にするには、アダプタがある各サーバにアダプタ リスナをインストールします。

重要: アダプタ サーバでアダプタ リスナを開始しないでください。追加のアプリケーションサーバのうち 1 台にアダプタ リスナが含まれることを確認します。

次の手順に従ってください:

1. カスタム Web サーバインストールを開始します。
2. [機能の選択] ウィンドウに移動し、[Web サイト]、[サービス]、[管理ツール]、および [データベース] 機能をクリアします。
3. インストールを完了します。

インストールの完了

インストールを完了するには、以下のタスクを実行します。

重要: CA Business Service Insight のインストール後に `sadmin` としてログインします。デフォルトのパスワードは「`sadmin`」です。

次の手順に従ってください:

1. 選択したサービスが正しくインストールされていることを確認します。
 - a. [スタート] メニューの [ファイル名を指定して実行] をクリックします。
 - b. 「`services.msc`」と入力して、[OK] をクリックします。
 - c. インストール中に選択したコンポーネントに対応するサービスが正しくインストールされたことを確認します。

注: デフォルトでは、ACE がデフォルト計算エンジンです。ACE2 サービスは表示されません。

サービスの完全なリストについては、「[CA Business Service Insight サービス \(P. 39\)](#)」を参照してください。

2. CA Business Service Insight Web サイトにログインします。
3. 選択したタイムゾーンに時間オフセットが一致することを確認します。

4. 夏時間の日付がお住まいの場所に一致することを確認します。
5. (オプション) リバース プロキシが CA Web サイトに転送するリクエストをサポートするには、web.config ファイルの「AppSettings」セクションで、プレフィックス文字列を ProxyPrefix キー値として入力します。このプレフィックス文字列は、プロキシ設定で CA Web サイトにリクエストをルーティングするように設定されています。

- a. Web サイトがリバース プロキシに正しくルーティングされることを確認します。プロキシ値のスペルが正しく、2 つのスラッシュ間に入力されていること ("/prefix/") を確認します。

たとえば、CA Web サイトにマッピングされたプレフィックスが「ca」の場合、web.config を以下のように更新します。

```
<appSettings>
<add key="ProxyPrefix" value="/ca/" />
</appSettings>
```

ProxyPrefix キーが存在しない場合やその値が空の文字列の場合、Web サイトは標準モードで動作します。

- b. プロキシ設定にヘッダを追加します。以下のヘッダ キーを使用します。

「X-Forwarded-CA-Oblicore-Proxy」

6. (オプション) 3 層インストールでは、CA Business Service Insight Web サイトの設定を更新します。

- a. [管理] - [サイト設定] - [詳細] をクリックします。
- b. [キュー] をクリックします。
- c. アプリケーション サーバの IP またはアドレスで [現在のステータス MSMQ マシン]、[デフォルト MSMQ マシン]、および [ダッシュボード MSMQ マシン] を更新します。

注: Windows Server 2008 R2 では追加設定が必要です。以下のパラメータを更新します。

- [ACE2] を選択して、[ACE2 サーバ] を更新します。
- [ダッシュボード] - [アドレス] を選択して、[ダッシュボード サービス URL] を更新します。
- [ダッシュボード] - [現在のステータス関連設定] を選択して、[リモートの現在のステータス リスナの URL] および [ダッシュボード エンジン リスナ アドレス] を更新します。

CA Business Service Insight は使用できる状態になりました。

CA Business Service Insight サービス

サービス名 / サーバ	サービスの説明	サービスカ タログのモ デル化	サービスレベ ルの計算	エンタープライ ズの影響度分 析
ACE 移行サービス / アプリケーション サーバ	ACE1 エンジンから ACE2 エンジンにメトリックを割り当てるときに受け取る再計算日付リクエストを検出および設定します。 ACE 移行サービスはバージョン 8.2 以降でインストールされるサービスです。			
アダプタ リスナ (アダプタ) / アプリケーション サーバ	アダプタからデータを読み取り、CA Business Service Insight データベースに格納します。このサービスとアダプタとの通信は、TCP/IP ソケットを介して実行されます。	いいえ	はい	いいえ
アダプタ展開 (アダプタ) / アプリケーション サーバ	アダプタ ウィザードからアダプタの作成、更新、または削除リクエストを受信します。このサービスは Web サービス インターフェースを介して通信します。	いいえ	はい	はい
アラート (イベント) / アプリケーション サーバ	システムの各部からイベントを受信し、それらのイベントのデータをシステムアラートプロファイルのセットと比較します。イベントがアラートプロファイルに一致する場合、サービスはアラートを生成します。サービスはデータベース キューからイベントを受信します。	いいえ	はい	はい

サービス名 / サーバ	サービスの説明	サービスカ タログのモ デル化	サービスレベ ルの計算	エンタープライ ズの影響度分 析
現在のステータス エンジン (ダッシュボード)	ダッシュボード上の [現在の ステータス] インジケータを 計算します。	いいえ	いいえ	はい
/ アプリケーション サーバ				
ダッシュボードエ ンジン (ダッシュボード)	各ダッシュボードエンティ ティの重大度を計算します。	いいえ	いいえ	はい
/ アプリケーション サーバ				
ログサーバ (ログ)	システムの各部からのログ メッセージをデータベース に書き込みます。	はい	はい	はい
/ アプリケーション サーバ	各 CA Business Service Insight コンポーネントは TCP/IP ソ ケットを介してログサーバ と通信し、メッセージをログ に記録します。			
ペナルティライタ / アプリケーション サーバ	後方互換性を提供します。 注: 非推奨のペナルティラ イタ機能はメトリックを使 用して行われるようになり ました。	いいえ	いいえ	はい

サービス名 / サーバ	サービスの説明	サービスカ タログのモ デル化	サービスレベ ルの計算	エンタープライ ズの影響度分 析
PSL Writer (PSL) / アプリケーション サーバ	システム内の契約ごとに含まれる各メトリックのサービスレベルを計算します。このサービスは古いメインの計算エンジンです。 スケールアップするには、アプリケーションサーバ上に複数の PSL Writer サービスをインストールします。その場合、サービスは通常「PSL Writer N」という名前になります。N は各サービスに指定された一意の ID です。	いいえ	はい	はい
レポートスケ ジューラ (レポート) / アプリケーション サーバ	スケジュールされたレポートを実行します。	いいえ	いいえ	はい
PSLWorker <番号> (ACE2) / アプリケーション サーバ	ACE2 メトリックに提供されるサービスレベルを計算します。	いいえ	はい	はい
ScriptHost / アプリケーション サーバ	ホストとしてエンジンタスクを実行します。	はい	はい	はい
Oblisync on JBoss ア プリケーション サーバ (コンテンツ転送) / Web サーバ	[コンテンツ転送] 機能の実行を有効にします。	いいえ	はい	いいえ

サービス名 / サーバ	サービスの説明	サービスカ タログのモ デル化	サービスレベ ルの計算	エンタープライ ズの影響度分 析
ACE on JBoss アプリ ケーションサーバ / アプリケーション サーバ	JEE アプリケーションサーバ 上で ACE2 マネージャを実行 します。	いいえ	はい	はい
Tomcat 6 / アプリケーション サーバ & / Web サーバ	Apache Tomcat 6.0.32 サーバ 詳細については、 http://tomcat.apache.org を参 照してください。	はい	はい	いいえ
タスク ホスト / アプリケーション サーバ	以下を含む非同期のシステ ム メンテナンス操作を実行 します。 <ul style="list-style-type: none"> ■ 有効期限が切れた時点で 契約のステータスを変更 する ■ 不明なイベントの Raw データを分析する ■ 契約が最新かどうかを確 認するインジケータを計 算する。 契約を表示する ときにそのデータを確認 できます。 ■ 「変換スクリプト」を実 行する 	はい	はい	はい

第 4 章: CA Business Service Insight クライアント パック インストール

CA Business Service Insight Web サイトの機能によっては、エンドユーザブラウザ上でサードパーティ アプリケーションをインストールする必要がある場合があります。必要なアプリケーションをすべてインストールするには、CA Business Service Insight クライアント インストール パックをインストールします。

CloudInsight8.3_Client.exe ファイルは DVD の .iso ファイルに含まれていません。

コンポーネント

以下の表に、必要なコンポーネントおよび関連する CA Business Service Insight 機能の一覧を示します。

コンポーネント名	サードパーティ アプリケーション	機能
タイムスロット エディタ	アプレット	デザイン、ファンデーションエンティティ、タイムスロット テンプレート、タイムスロットの表示
TeeChart Pro	ActiveX	レポート、レポート ウィザード、生成
フローチャート	ActiveX	サービス レベル管理、契約ナビゲータ
スクリプト エディタ	ActiveX	カタログ、テンプレート ライブラリ、ビジネス ロジック テンプレート、ビジネス ロジック テンプレートの追加
DataSourceAnalyzerAX	ActiveX	デザイン、データ取得、アダプタ、新規追加、テキスト ファイル/SQL アダプタ
ActiveQueryBuilderXControls	ActiveX	デザイン、データ取得、アダプタ、新規追加、新規 SQL アダプタの追加

クライアントソフトウェアの前提条件

クライアント インストーラは以下のオペレーティング システムをサポートします。

- Microsoft Windows XP SP3 (32 ビット バージョンのみ)
- Microsoft Windows Vista (32 ビット バージョンおよび 64 ビット バージョン)
- Microsoft Windows 7 (32 ビット バージョンおよび 64 ビット バージョン)

クライアントでは、以下のソフトウェアが動作する必要があります。

コンポーネント	バージョン	メモ
Microsoft .NET Framework	4 ランタイム	この .NET Framework は、Microsoft Word 2010 アドオンを使用してブックレットを作成するために必要です。 .Net 4 の詳細については、Microsoft の Web サイトを参照してください。
Microsoft Office Web コンポーネント 2003	10 以降	Microsoft Office Web コンポーネントの詳細については、Microsoft の Web サイトを参照してください。
Microsoft Silverlight	3.5 sp1 以降	Microsoft Silverlight は、インタラクティブなユーザ体験を作成するための無償の .NET Framework プラグインです。 Silverlight とそのインストールの詳細については、Microsoft の Web サイトを参照してください。
Adobe Flash Player	8 以降	詳細については、Adobe の Web サイトを参照してください。

コンポーネント	バージョン	メモ
JRE (Java Runtime Environment)	1.4.2.3 以降	Java Runtime Environment の詳細については、 http://java.com/en/download/help/sysreq.xml を参照してください。

クライアントは、Internet Explorer の以下のバージョンをサポートします。

- 7.0
- 8.0
- 9.0

クライアントには以下のセキュリティ設定が必要です。

- クライアント スクリプト実行 (許可済み)
- IIS セッション状態可用性 (有効)
- セッション Cookie (有効)
- 永続ブラウザ Cookie (有効)
- ポップアップ ブロック (無効) CA Business Service Insight が信頼済みサイトとして定義されている、またはポップアップ ブロッカがインストールまたは有効化されていない。
- ActiveX の実行 (許可済み)。

注: 会社のポリシーでこのアイテムの設定が許可されていない場合、必須ではありません。

- Java アプレットの有効化 (有効)

CA Business Service Insight クライアントのインストール

CA Business Service Insight Web サイトで全機能を有効にするには、クライアント インストール パッケージをインストールします。

注: インストールには、クライアント ワークステーションでの管理者権限が必要です。

次の手順に従ってください:

1. CloudInsight8.3_Client.exe を実行します。
2. 画面上の指示に従います。

ウィザードにより必要なコンポーネントがインストールされます。

サイレント インストール

サイレント インストールでは、ユーザ入力の要求に応答せずに、クライアント パックを複数のワークステーションにインストールすることができます。インストールでは、.ini ファイルに類似した .iss 応答ファイルを使用します。

クライアント応答ファイルの記録

サイレントインストールの準備を行うには、応答ファイルを記録します。

次の手順に従ってください:

1. コマンドラインから以下のコマンドを実行します。

```
CloudInsight8.3_Client.exe /r /f1"<location/filename.iss>"  
/f1 "location/filename>.iss"
```

(オプション) 応答ファイル用のデフォルト以外のファイル名および場所を指定します。

例:

```
CloudInsight8.3_Client.exe/r /f1"c:¥Silent¥client.iss"
```

注: デフォルトのファイル名は **Setup.iss**、デフォルトの場所は **Windows** フォルダです。

InstallShield によってセットアップの選択内容が記録されます。

2. (オプション) デスティネーションパスを変更します。
 - a. 応答ファイルを開き、以下のセクションに移動します。

```
[{8052F2E0-6031-4985-A87A-E10E388AF1AF}-SdAskDestPath-0]  
szDir=C:¥Program Files¥CA¥Cloud Insight¥Client¥  
Result=1
```

- b. パスを変更します。

応答ファイルが使用可能になります。

クライアント応答ファイルの例

```
{8052F2E0-6031-4985-A87A-E10E388AF1AF}-DlgOrder]
Dlg0={8052F2E0-6031-4985-A87A-E10E388AF1AF}-SdWelcome-0
Dlg1={8052F2E0-6031-4985-A87A-E10E388AF1AF}-SdLicense2-0
Dlg2={8052F2E0-6031-4985-A87A-E10E388AF1AF}-SdAskDestPath-0
Dlg3={8052F2E0-6031-4985-A87A-E10E388AF1AF}-SdFinish-0
Count=4
[{8052F2E0-6031-4985-A87A-E10E388AF1AF}-SdWelcome-0]
Result=1
[{8052F2E0-6031-4985-A87A-E10E388AF1AF}-SdLicense2-0]
Result=1
[{8052F2E0-6031-4985-A87A-E10E388AF1AF}-SdAskDestPath-0]
szDir=C:\Program Files\CA\Cloud Insight\Client\
Result=1
[{8052F2E0-6031-4985-A87A-E10E388AF1AF}-SdFinish-0]
Result=1
bOpt1=0
bOpt2=0
```

注: その他の例については、サーバ/サイレント サンプル ファイル フォルダを参照してください。

サイレント モードでのクライアントのインストールの実行

ユーザ入力を行わずにクライアント インストール パックをインストールするには、サイレント インストールを実行します。各クライアントワークステーションでこの手順を繰り返します。

次の手順に従ってください:

1. 応答ファイルをターゲットワークステーションにコピーします。
2. コマンドラインから以下のコマンドを実行します。

```
Cloud_Insight_Server_8.3/s /f1"<location/filename.iss> command  
/f1"<location/filename.iss>"
```

応答ファイルの場所および名前を指定します。

インストールが実行され、**setup.log** という名前のログ ファイルが生成されます。

3. インストールが成功したことを確認します。

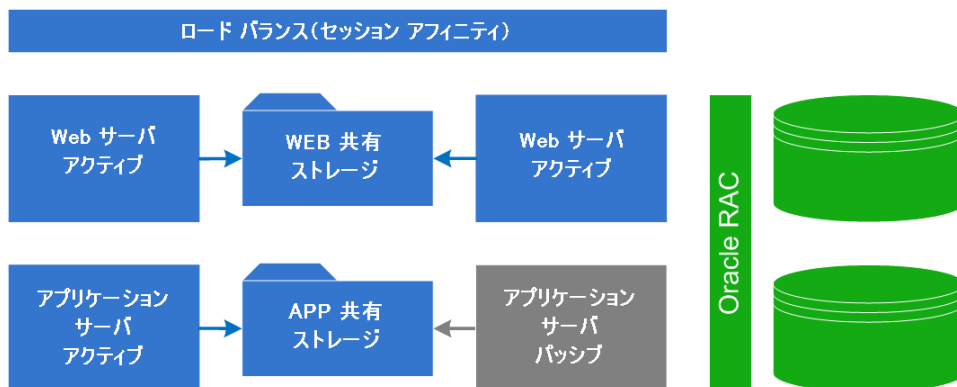
CA Business Service Insight Web サイトの全機能がワークステーション上で有効になりました。

第 5 章: CA Business Service Insight をインストールして高可用性を確保する方法

システム管理者には、CA Business Service Insight の継続的な可用性を確保する責任があります。CA Business Service Insight は、Windows クラスタ テクノロジおよび Windows ネットワーク負荷分散 (NLB) テクノロジに基づく高可用性インストールを提供します。

CA Business Service Insight では、以下のオプションを使用して高可用性を確保します。

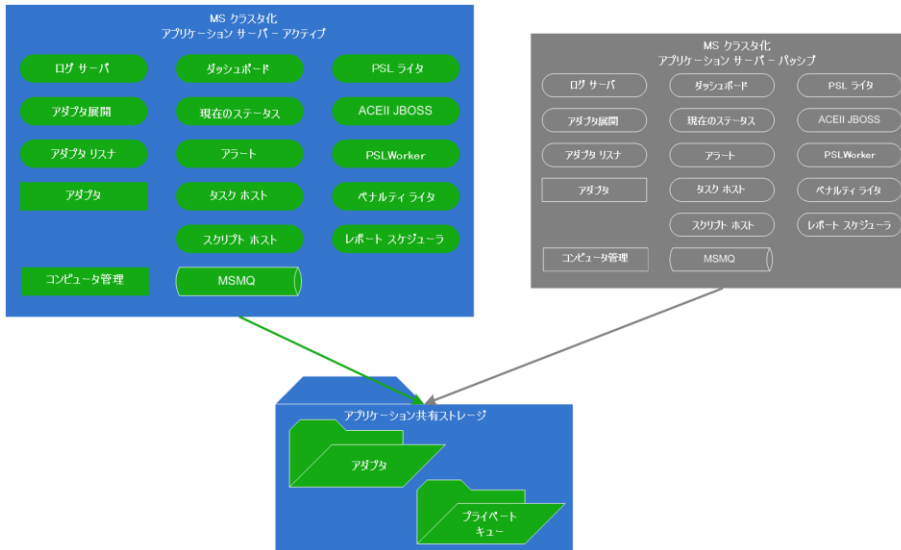
- データベースは Oracle RAC 展開を使用します。
- アプリケーション サーバをアクティブ/パッシブとして展開します。
- Web サーバをアクティブ/アクティブとして展開し、Web セッションアフィニティによる負荷分散を使用します。



ノード間でファイルを共有するために、Web サーバとアプリケーションサーバの両方に、高可用性の共有ファイルシステムが必要です。高可用性要件に対応するストレージ動作環境を使用します。

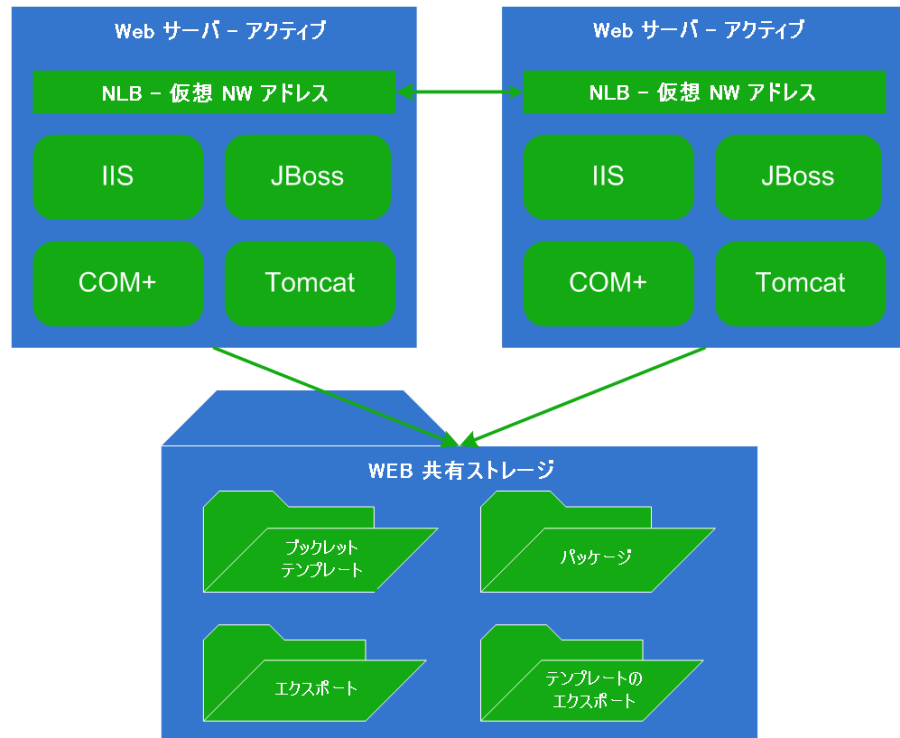
アプリケーション サーバ

アプリケーション サーバはアクティブ/パッシブ モードで展開されます。アプリケーション サーバ上のサービスは一度に 1つのサーバでのみ実行されます。基本の高可用性インフラストラクチャは、アクティブ サーバからパッシブ サーバへのサービスのフェールオーバーを実行するよう設定されます。アプリケーションサーバ内の共有データはアダプタ設定、状態ファイル、および MSMQ データ ファイルから構成されます。



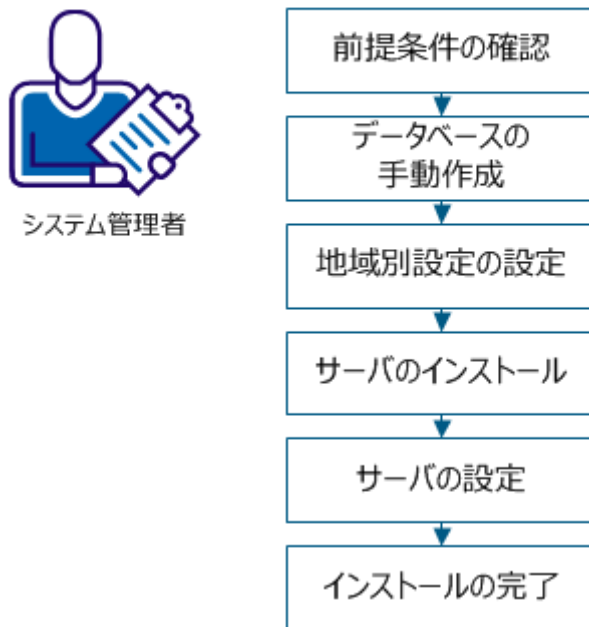
Web サーバ

Web サーバは **Active/Active** として展開されます。すべての **Web** サーバが同時にアクティブであり、必要に応じてクライアントとして機能します。**Web** サーバは **IIS** セッションにデータを格納するため、**NW** 負荷分散は **Web** サーバをクライアントに割り当てる際にアフィニティを使用する必要があります。大半のロードバランサはこの機能をサポートします。**Tomcat** で実行される **SMI GUI** コンポーネントは、従来の **Oblicore Web** サーバが使用した状態の一部を使います。



このシナリオを使用し、プロセスについて段階的に説明します。

CA Business Service Insight をインストールして高可用性を確保する方法



1. [前提条件の確認](#) (P. 52)
2. [データベースの手動作成](#) (P. 25)
3. [地域別設定の設定](#) (P. 27)
4. [CA Business Service Insight サーバのインストール](#) (P. 56)
5. [サーバの設定](#) (P. 62)
6. [インストールの完了](#) (P. 67)

前提条件の確認

正常にインストールするには、前提条件を確認します。CA Business Service Insight、インストールの前提条件を使用しますが、以下の例外があります。

- 管理者権限を持つドメインアカウントをインストールに使用します。
- 高可用性には Windows 2008 動作環境が必要です。

- RAC で Oracle データベースを作成します。詳細については、「[データベースの手動作成](#) (P. 25)」を参照してください。
重要: RAC を ASM と共に使用しないでください。
- 割り当てられた DNS 名を持つ 4 つの静的 IP アドレスを準備します。
- 前提条件に関する完全な情報については、「[CA Business Service Insight インストールの前提条件](#) (P. 11)」を参照してください。

データベースの手動作成

Windows 以外のサーバで CA Business Service Insight データベースをセットアップするには、手動でデータベースを作成します。

CA のデフォルト設定を使用しない場合は、[CA Technologies のデータベースオブジェクト用の命名規則ポリシー](#) (P. 113)を印刷します。ユーザのデータベース命名規則が CA Technologies のポリシーと異なる場合、インストールの前にフォームに記入して CA サポートにお問い合わせください。

次の手順に従ってください:

1. インストール CD の Server¥program files¥CA¥Cloud Insight¥Setup¥InstallDB にあるインストールファイルを見つけて、このファイルを %OBLICORE_ROOT%¥Setup¥InstallDB にコピーします。
 - (Windows) Main.bat
 - (UNIX) Main.sh
2. %OBLICORE_ROOT%¥Setup¥InstallDB にある start_parameter.ini 内のパラメータを更新します。

OBLICORE_ROOT

セットアップによってデータベース名でフォルダが作成されるデータベースの場所を指定します。

重要: データベース作成スクリプトを実行する前に、ルートフォルダを作成します。

DB_NAME

データベース インスタンスの名前を指定します。

制限: 1 ~ 8 文字

ORACLE_HOME

Oracle ホームの場所を指定します。

注: サーバに複数のホームがある場合は、クライアントインストールではなく Oracle サーバインストールを参照するホームを使用します。

SYS_PASS

SYS ユーザ パスワードを指定します。

OBLICORE_USER

CA Business Service Insight データベース エンティティを持つスキーマ ユーザの名前を指定します。

OBLICORE_PASS

スキーマ ユーザのパスワードを指定します。

OBLIDBADMIN_PASS

データベース インストールおよびマイグレーション中に使用される Oracle ユーザ `oblidbadmin` のパスワードを指定します。

DB_CHARSET

データベースの文字セット (UTF-8 または MSWIN1252) を指定します。

DB_SYNONYM

パブリック シノニムまたはプライベート シノニムを指定します。

例 :

```
[DataBaseDetails]
OBLICORE_ROOT=c:%oblicore
DB_NAME=oblicore
ORACLE_HOME=c:%oracle%product%11.1.0%db_1
SYS_PASS=sys
OBLICORE_USER=oblicore
OBLICORE_PASS=oblicore
OBLIDBADMIN_PASS=oblidbadmin
DB_CHARSET=utf8
DB_SYNONYM=public
```

3. スクリプトを実行します。
4. パラメータが正しいことを確認します。

5. 画面上の指示に従います。
6. ログファイルでエラーを確認します。
データベースがセットアップされて、CA Business Service Insight サーバをインストールすることができます。

インストールおよび地域の設定

正常にインストールするには、サーバの地域設定を英語に変更します。英語以外の設定ではインストール後に問題が発生する可能性があります。

CA Business Service Insight サーバのインストール時に、以下のプロセスを使用します。

1. サーバの地域設定を英語（米国）に変更します。
2. サーバをインストールして再起動します。
3. 地域の設定を元に戻します。
4. サーバを再起動します。

CA Business Service Insight サーバのインストール

[set to your product name] システムを作成するには、サーバ コンポーネントをインストールします。高可用性を確保するには、以下の順序でサーバをインストールします。

1. アプリケーション サーバ
2. Web サーバ
3. アダプタ サーバ

以下のプロセスを使用して、各サーバ ノード上でインストールを実行します。

1. ノードに接続します。
2. サーバ コンポーネントをインストールします。
3. サーバ ノードを再起動します。
4. クラスタ内の各ノードに対して、この手順を繰り返します。

次の手順に従ってください:

1. インストールフォルダのコンテンツをインストール CD からインストールフォルダにコピーします。

デフォルト : C:\Program Files\CA \Cloud Insight\Setup または %ProgramFiles%\CA \Cloud Insight\Setup

重要: & および . をインストールディレクトリ名に含めないでください。

2. サーバディレクトリから Cloud_Insight_Server_8.3.exe を実行します。
3. インストール言語を選択し、[OK] をクリックします。
4. 前提条件コンポーネントを自動的にインストールするには、[インストール] をクリックします。

注: すべての必要なコンポーネントがすでにインストールされている場合、このダイアログボックスは表示されません。

インストール ウィザードが起動します。

5. ウィザードに従ってインストールを完了します。
 - 組織名に特殊文字 (& など) が含まれる場合、各特殊文字の前に ^ を追加します。
たとえば、AB&C は AB^&C となります。
 - [セットアップタイプ] については、[標準] を選択します。
 - トポロジに基づいて必要なサーバコンポーネントを選択します。
6. インストールダイアログボックスを完了します。

注: 選択する機能に関連するダイアログボックスのみが表示されます。詳細については、「[インストールダイアログボックス \(P. 29\)](#)」を参照してください。

[セットアップステータス] ウィンドウが表示され、インストールが開始されます。

注: Windows Server 2008 R2 インストールの場合、DocumentLoader エラーが発生しても無視します。
7. インストールウィザードが完了したら、コンピュータを再起動します。

注: Windows Server 2008 R2 では、サーバを再起動する前に追加設定が必要です。詳細については、「[Windows Server 2008 R2 サーバ設定 \(P. 34\)](#)」を参照してください。

必要な場合、その他のサーバコンポーネントをインストールします。

インストールダイアログボックス

インストール時には、関連するダイアログボックスがウィザードに表示されます。以下の表に、選択するサーバコンポーネントに基づいて表示されるダイアログボックスの一覧を示します。

選択されたサーバ	関連するダイアログボックス
データベース + アプリケーション + Web	[ログオン情報]、[データベース作成]
アプリケーション + Web	[ログオン情報]、[データベース接続]
データベース	データベース作成
アプリケーション	[ログオン情報]、[データベース接続]

Web [ログオン情報]、[ログサーバ設定]、[データベース接続]

以下の表に、インストールダイアログボックスおよび関連するパラメータと値の一覧を示します。

重要: ダブルダガー (‡) が付いているエントリにはダブルバイト文字を使用しないでください。

注: Oracle の命名規則では、特定の文字の使用がサポートされていません。ASCII などの特定の要件、および特殊文字やダブルバイト文字などの制限については、Oracle の資料を参照してください。

名前	パラメータ	値	メモ
データベース作成	Oracle バージョン ‡	デフォルト：サーバのデフォルト値	
	データベース ファイルの場所 (DB File Location) ‡		
	データベース サーバ名 (DB server name) ‡		
	文字セット	UTF8 または MSWIN	
	シノニム	Public または Private	
データベース接続	Oracle バージョン	10 または 11	
	CA Business Service Insight データベース インスタンス TNS 名 ‡	データベース インスタンスの TNS 名。	TNSNAMES.ORA ファイルにある CA Business Service Insight の TNS 名を指定します。

名前	パラメータ	値	メモ
ログイン情報	ユーザ名 †	ユーザの名前。 デフォルト：インストールに使用するユーザアカウント。	ユーザおよびパスワードを専用ドメインアカウントに変更することをお勧めします。 新しいユーザを作成するには、[新規ユーザ]をクリックします。 リストからユーザを選択するには、[ユーザの選択]をクリックします。
	パスワード †	ユーザのパスワード	
新規ユーザの情報	ドメインまたはサーバ		このダイアログボックスで、新しい CA Business Service Insight ユーザを作成できます。
	グループ		
	ユーザ名 †		
	パスワード †		
	パスワードの確認 †		
ユーザの選択	オブジェクトタイプ		管理者ローカルグループに属しているユーザを選択する必要があります。
	場所		
ログサーバ環境設定	ログサーバネットワークアドレス	デフォルト：localhost	localhost は、Web サーバを含むすべてのサーバで有効です。 ログサーバがローカルホスト上にない場合は、アドレスを正しいサーバに変更します。 注：アドレスはログサーバのインストール先のアドレスである必要があります。

名前	パラメータ	値	メモ
	ログサーバネットワークポート	デフォルト：4040	
ネットワークパスワードの入力	ユーザ名		ドメインにログオンしていない場合、Microsoft 標準の [ネットワークパスワードの入力] ダイアログボックスが何度か表示されます。必要に応じて、有効なドメインユーザおよびパスワードを入力してドメインにアクセスします。
	パスワード		
サービス起動タイプ	サービス起動タイプ	自動または手動 既定値：手動	ログサーバサービスは常に [自動] に設定されています。
Web サイト設定	WWWRootfolder ‡	WWWRoot フォルダの場所 デフォルト：Web サイトが現在インストールされているフォルダ	
	SessionDataFolder ‡	SessionData フォルダの場所 デフォルト：インストールディレクトリ	
	SessionTimeout	デフォルト：300	

Windows Server 2008 R2 サーバ設定

Windows Server 2008 R2 上でインストールを設定するには、アプリケーションサーバコンポーネントまたは Web サーバコンポーネントを含むすべてのサーバで以下のタスクを実行します。

次の手順に従ってください:

1. インストールウィザードで再起動を求められた場合は、コマンドプロンプトを開きます。

- a. [スタート] メニューの [ファイル名を指定して実行] をクリックします。
- b. [ファイル名を指定して実行] ウィンドウで以下のコマンドを入力します。

```
C:%Windows%SysWOW64%cmd.exe
```

コマンドプロンプトが表示されます。

2. 以下のいずれかのコマンドを実行します。

- サーバに Web サーバコンポーネントが含まれています。

```
cd %OG_HOME%bin  
StringsLoader.exe -a <言語文字列 xml ファイルへのパス>  
cd %OG_HOME%Setup%Migration%  
DocumentLoader.exe
```

デフォルトパス:

```
C:%Inetpub%wwwroot%Oblicore%App_Data%Resources
```

- サーバにアプリケーションサーバコンポーネントのみが含まれています。

```
cd %OG_HOME%bin
```

3. サーバを再起動します。

サーバの設定

高可用性を確保するには、サーバを設定します。

重要: CA Business Service Insight のインストール後に、**sadmin** として CA Business Service Insight Web サイトにログインします。デフォルトのパスワードは「**sadmin**」です。

各サーバに関しては、サービスについて以下を確認します。

- すべてのサービスは、[開始タイプ] が [手動] に設定されています。
- JBOSS アプリケーションサーバ上の ACE 2 および Oblicore - Tomcat 6 は、[ログオン] が [ローカルシステム] に設定されています。
- その他のすべてのサービスは、[ログオン] が [<ドメインユーザ>] に設定されています。

アプリケーション サーバの設定

次の手順に従ってください:

サービスグループの作成

1. フェールオーバークラスタ管理プログラムを開きます。
2. コンソールツリーの [サービスとアプリケーション] をクリックします。
3. [その他のアクション] から [空のサービスまたはアプリケーションの作成] をクリックします。
4. 以下のグループを作成します。
 - CA Business Service Insight、サービス
 - CA Business Service Insight、現在のステータス
 - CA Business Service Insight、ACE1 Writer
 - CA Business Service Insight、ACE2 Worker

注: 単一のグループをすべてのサービスに使用できます。

サービスグループへのサービスの追加

1. CA Business Service Insight サービスグループをクリックします。
2. [リソースの追加] - [汎用サービス] に移動し、ドロップダウンリストから以下のリソースを追加します。リソースを選択して [次へ] をクリックし、[完了] をクリックします。
 - Oblicore - Tomcat 6
 - Oblicore - ACE2 on JBoss アプリケーションサーバ
 - Oblicore - アダプタ リスナ
 - Oblicore - アラート
 - Oblicore - ダッシュボード エンジン
 - Oblicore - ログ サーバ
 - Oblicore - PenaltyWriter
 - Oblicore - ScriptHost
 - Oblicore - タスク ホスト
 - Oblicore - レポート スケジューラ
3. CA Business Service Insight サービスグループをクリックします。
4. [リソースの追加] - [クライアントアクセスポイント] に移動し、ネットワーク名およびIPアドレスの入力を入力します。このアクションには数分かかる場合があります。設定が完了するまで終了しないでください。
5. [次へ] - [次へ] - [終了] をクリックします。

リソース依存関係の設定

次のリスト内の各リソースに対して以下の手順を実行します。

- Oblicore - Tomcat 6
 - Oblicore - ACE2 on JBoss アプリケーションサーバ
 - Oblicore - アダプタ リスナ
 - Oblicore - ダッシュボード エンジン
1. リソースをダブルクリックします。
 2. [依存関係] タブに移動します。
 3. アクセスポイントネットワーク名を選択して、[OK] をクリックします。

クラスタグループへのリソースの追加

1. Oblicore - Current_Status_Engine リソースを CA Business Service Insight - 現在のステータス グループに追加します。
2. Oblicore - PSLWriter リソースを CA Business Service Insight - ACE1 Writer グループに追加します。
3. 各追加 PSLWriter サービスのリソースを作成し、サービスを CA Business Service Insight ACE1 Writer グループに追加します。
4. Oblicore - PslWorker1 リソースを CA Business Service Insight - ACE2 Worker グループに追加します。

メッセージキュー サービスの追加

1. フェールオーバークラスタ管理プログラムを開きます。
2. コンソール ツリーに移動し、 [サービスとアプリケーション] をクリックします。
3. [サービスまたはアプリケーションの構成] をクリックします。
4. 高可用性ウィザードが表示されます。
5. [メッセージキュー] を選択し、 [次へ] をクリックします。
6. ウィザードに従って設定を完了します。
7. サーバー マネージャを開きます。 [機能]-[メッセージ]-[専用キュー] に移動します。 各アプリケーションサーバノードで、専用キュー ストレージフォルダ内のすべてのキューを削除します。

8. フェールオーバークラスタ管理プログラムを開きます。 [メッセージキューサービス] を右クリックし、 [メッセージキュー] - [専用キュー] を開きます。 各アプリケーションサーバノードで、専用キューストレージフォルダ内のすべてのキューを削除します。
9. [メッセージキューサービス] を右クリックし、 [MSMQの管理] - [メッセージキュー] - [専用キュー] をクリックして、以下のキューを作成します。
 - OG アラート
 - OG アダプタ リスナ
 - OG ダッシュボード
 - OG 現在のステータス

リソースの開始

1. すべてのリソースをオンラインにします。

Web サーバの設定

次の手順に従ってください:

1. ネットワーク負荷分散をセットアップします。

Microsoft TechNet ガイドの手順

([http://technet.microsoft.com/en-us/library/cc754833\(WS.10\).aspx](http://technet.microsoft.com/en-us/library/cc754833(WS.10).aspx)) に従います。

2. [プログラム ファイル] - [Oblicore] に移動します。
3. ブックレットテンプレート フォルダ、エクスポートテンプレートフォルダ、およびパッケージフォルダを Web 共有フォルダにコピーします。

アダプタ サーバの設定

次の手順に従ってください:

1. 最初の CA Business Service Insight アダプタ クラスタ サーバ ノードに接続します。
2. フェールオーバー クラスタ 管理プログラムを開きます。
3. コンソール ツリー内で、[サービスおよびアプリケーション] をクリックします。
4. [その他のアクション] から [空のサービスまたはアプリケーションの作成] をクリックします。
5. [Oblicore] - [アダプタ展開] をクリックします。
6. [その他のアクション] - [リソースの追加] - [汎用サービス] をクリックして、Oblicore – AdapterDeployment リソースを追加します。
7. ¥Program Files¥Oblicore¥Adapters に移動し、展開したアダプタ フォルダをクラスタ化共有フォルダ (ディスク S) のアダプタ フォルダにコピーします。

注: アダプタ パスがクラスタ ドライブ上の正しいアダプタ フォルダパスを指していることを確認します。

8. 各アダプタ クラスタ サーバ ノードで、レジストリ エディタを開き、[HKEY_LOCAL_MACHINE] - [SOFTWARE] - [Oblicore] - [アダプタ] に移動します。AdaptersDir 文字列に値 S:¥Adapters が含まれることを確認します。
9. リソースを右クリックして、[このリソースをオンラインにする] をクリックします。

インストールの完了

CA Business Service Insight がエラーなしで動作するには、インストールを完了します。

次の手順に従ってください:

1. CA Business Service Insight の Web サイトにログインします。
2. 選択したタイムゾーンに時間オフセットが一致することを確認します。
3. 夏時間の日付がお住まいの場所に一致することを確認します。
4. [管理] - [サイト設定] - [詳細] をクリックし、以下のパラメータを更新します。

[設定]フォルダ	パラメータ	値
ACE2	ACE2 サーバ	アプリケーションサーバの共有アドレス。 デフォルト : bsiapp
アダプタ ウィザード	アダプタ リスナ アドレス	アプリケーションサーバの共有アドレス。 デフォルト : bsiapp
ダッシュボード、アドレス	ダッシュボード サービス URL	アプリケーションサーバの共有アドレス。 デフォルト : bsiapp
ダッシュボード、現在のステータス関連設定	<ul style="list-style-type: none"> ■ リモートの現在のステータス リスナの URL ■ ダッシュボードエンジンリスナアドレス 注: これらのパラメータは Windows Server 2008 R2 でのみ更新します。	アプリケーションサーバの共有アドレス。 デフォルト : bsiapp

キュー	<ul style="list-style-type: none"> ■ 現在のステータス MSMQ マシン ■ ダッシュボード MSMQ マシン ■ デフォルト MSMQ マシン 	アプリケーション サーバの共有アドレス。 デフォルト : bsiapp
レポート	<p>ブックレットパス</p> <p>注: デフォルトでは、GUI で [ブックレットパス] を編集できません。</p> <p>t_system_configuration s 内のパラメータを更新するか、Changeable_in_gui を Y に設定します。</p>	共有ストレージフォルダ/ブックレットのパスの場所
SMI アプリケーションサーバ	SMI アプリケーションサーバ ホスト	アプリケーション サーバの Tomcat 共有ネットワーク IP アドレス。
システム	Web サーバ	Web NLB アドレス。

(オプション)プロキシプレフィックスの更新

リバースプロキシがCA Webサイトに転送するリクエストをサポートするには、`web.config` ファイルの「AppSettings」セクションでプレフィックス文字列を `ProxyPrefix` キー値として入力します。このプレフィックス文字列は、プロキシ設定でCA Webサイトにリクエストをルーティングするように設定されています。

1. Web サイトがリバースプロキシに正しくルーティングされることを確認します。プロキシ値のスペルが正しく、2つのスラッシュ間に入力されていること（`"/prefix/"`）を確認します。

たとえば、CA Webサイトにマッピングされているプレフィックスが「ca」の場合、`web.config` を以下のように更新します。

```
<appSettings>
<add key="ProxyPrefix" value="/ca/" />
</appSettings>
```

`ProxyPrefix` キーが存在しない場合やその値が空の文字列の場合、Webサイトは標準モードで動作します。

2. プロキシ設定にヘッダを追加します。以下のヘッダキーを使用します。
「X-Forwarded-CA-Oblicore-Proxy」

第 6 章: CA Business Service Insight のアップグレード方法

システム管理者は、定期的に CA Business Service Insight を更新することが重要です。アップグレードにより、すべての新機能およびバグ修正を利用できます。

アップグレードファイルはプログラムを実行しているサーバを認識し、必要なファイルを更新します。最初に、**Alerts** サービスが含まれるアプリケーションサーバをアップグレードします。マイグレーションスクリプトは、アラートサービスがインストールされたアプリケーションサーバ上で自動的に実行されます。

マルチサーバ環境にアップグレードするには、最初にアプリケーションサーバでアップグレード処理を実行します。次に、**Web** サーバでアップグレードを実行します。アプリケーションサーバでアップグレードすると、自動的にデータベースマイグレーションが実行されます。

このシナリオを使用し、プロセスについて段階的に説明します。

CA Business Service Insight のアップグレード方法



システム管理者



1. [前提条件の確認](#) (P. 73)。
2. [ファイルとフォルダのバックアップ](#) (P. 74)。
3. [アップグレードの準備](#) (P. 75)。
4. [Web ウェブサイトの存在確認](#) (P. 75)。
5. [CA Business Service Insight のアップグレード](#) (P. 76)。
6. [アップグレードの完了](#) (P. 80)。
7. (オプション) [プロキシ文字列の更新](#) (P. 81)。
8. (オプション) [APIの更新](#) (P. 82)。

前提条件の確認

アップグレードの実行が可能であるかどうかを確認するには、以下の前提条件を確認します。

- CA Business Service Insight バージョン 7.0 SP1 以降がインストールされている。
- SYSDBA アクセス権限がある。
- データベースの各テーブルスペースに少なくとも 15 パーセントの未割当領域があること。

注: autoextend がオンになっている場合、データ ファイルの maxsize がデータファイルの現在のサイズの少なくとも 15 パーセント以上になっていることを確認します。

- データベース テーブルスペースが含まれる各物理デバイスの未割当領域が、デバイスのすべてのテーブルスペースの合計サイズの少なくとも 15 パーセントであること。
- Oracle OLEDB Provider がアプリケーション サーバと Web サーバにインストールされていること。
- ODAC 11.2 リリース 4 32 ビット (ODAC112040Xcopy_32bit) を Web サーバにインストールします。

ODAC をインストールするには、以下のコマンドを使用します。

```
Install.bat all c:%unique_installation_path%odac myhome true
```

ファイルとフォルダのバックアップ

アップグレード中に情報を失わないようにするため、以下のファイルとフォルダをバックアップします。

注: ロールバックを実行するには、すべてのバージョンをアンインストールし、前のバージョンをインストールし、バックアップデータをインポートします。

次の手順に従ってください:

1. データベース ダンプを実行します。
2. カスタマイズされたすべてのファイルをバックアップします。以下のファイルがカスタマイズ可能です。
 - LoginCommon.asp
 - RedirectToLogin.asp
 - SilentLogin.asp
 - AcceptLogin.asp
 - Web.config
 - Registry.xml
 - Index.asp (シングルサインオン用)
 - logo.jpg
 - logo.gif
 - logobg.gif
 - logout1.gif
 - logout2.gif
 - Reportlogo (およびダッシュまたはレポート エクスポートなど、その他のロゴ)
3. (オプション) 言語パッケージをバックアップします。

アップグレードの準備

アップグレードを確実に成功させるには、アップグレードを開始する前に以下のタスクを実行します。

次の手順に従ってください:

1. 英語でない地域言語設定を使用している場合、英語（米国）にそれを変更します。

注: アップグレードに別の言語設定を使用した場合、エラーを引き起こす可能性があります。

2. すべての Oblicore サービスを停止します。
3. IIS Manager で、Web サーバを停止します。

重要: WWW サービスまたは IIS Admin サービスを停止しないでください。

4. 分散トランザクション コーディネータ サービスを開始します。

注: このサービスが必要なのは、アップグレード時のみです。

5. oblicore_privs.sql を実行します。このスクリプトは、インストール CD の SetupDB¥Migration フォルダ内にあります。

注: db 所有者アカウントが oblicore でない場合は、.sql ファイルを更新して db 所有者アカウントに権限を付与します。

6. job_queue_processes パラメータが Init.ora ファイルで 2 に設定されていることを確認します。

Web サイトの存在確認

Web サイトが機能することを確認するには、サーバの Web サイトの存在を確認します。お使いのサーバトポロジに適用されるオプションを選択します。

次の手順に従ってください:

サーバはアプリケーション サーバとしてのみ指定されます。

1. アプリケーション サーバのレジストリを開き、以下のエントリを参照します: HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥Oblicore¥Install Data
2. WWWRootFolderLocation 文字列値が存在する場合は、削除します。

サーバがアプリケーション サーバとしてのみ指定されることはありません。

1. Web または Web サービス サーバのレジストリを開き、以下のエントリーを参照します： HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥Oblicore¥Install Data
2. WWWRootFolderLocation 文字列値が存在することを確認します。
3. この文字列値のデータに Web フォルダのフォルダパスが含まれていることを確認します。

注: 64 ビットシステムでは、エントリーは次のとおりです：

HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥WOW6432node¥Oblicore¥Install Data

CA Business Service Insight のアップグレード

CA Business Service Insight の新しい機能を利用するには、最新のバージョンにアップグレードします。

次の手順に従ってください：

1. サーバフォルダの Cloud_Insight_Server_8.3.exe をダブルクリックし、[次へ] をクリックします。
2. インストール言語を選択し、[OK] をクリックします。
3. [インストール] をクリックします。
4. インストール ウィザードの [次へ] をクリックします。
5. 使用許諾契約に同意し、[次へ] をクリックします。
6. サードパーティ CD の場所を選択し、[次へ] をクリックします。
7. (オプション) インストーラにより以前の JBoss コンポーネントをクリーンアップする指示が表示された場合は、クリーンアップを選択し、[次へ] をクリックします。

注: JBoss の旧バージョンがインストールされている場合にのみ、このプロンプトが表示されます。

アップグレードダイアログ ボックスが開きます。

8. 開いたダイアログ ボックスごとに、各パラメータの値を入力し、[次へ] をクリックします。

注: 詳細については、「[アップグレードダイアログ ボックス \(P. 77\)](#)」を参照してください。

9. 設定が正しいことを確認し、[次へ] をクリックします。
インストールが開始されます。
[マイグレーションスクリプトの実行] を選択した場合、手順に従います。
10. [完了] をクリックしてアップグレードを確定します。
システムが再起動します。

アップグレード ダイアログ ボックス

インストール ウィザードには、情報を更新するために CA Business Service Insight が使用するダイアログ ボックスが含まれます。選択する機能に関連するダイアログ ボックスのみが開きます。

以下の表は、アップグレード ダイアログ ボックスと関連するパラメータおよび値を一覧にまとめたものです。

重要: ダブルダガー (‡) が付いているエントリにはダブルバイト文字を使用することができません。

注: Oracle の命名規則では、特定の文字の使用がサポートされていません。Oracle の特定の要件 (ASCII など) および制限 (特殊文字やダブルバイト文字など) については、Oracle の資料を参照してください。

ダイアログ ボックス名	パラメータ	値	メモ
データベース 作成	マイグレーションス クリプトの実行	選択または選択解除	CA Business Service Insight Alerts サービスが含まれるアプリケーションサーバで自動的に選択されます。
	Oblicore データベース インスタンス TNS 名	TNSNAMES.ORA ファイル に表示されているとおり に TNS 名を入力します。 ‡	CA Business Service Insight データベース インスタンス TNS 名。
	スキーマ ユーザ名	アップグレードするス キーマ ユーザの名前を 入力します。	

ダイアログ ボックス名	パラメータ	値	メモ
	スキーマのパスワード	アップグレードするスキーマユーザのパスワードを入力します。	デフォルト：Oblicore
	システムパスワード	システムユーザパスワードを入力します。	
ログイン情報	ユーザ名	ユーザの名前。‡	デフォルト：インストールに使用するユーザアカウント。 注：ユーザおよびパスワードを専用ドメインアカウントに変更することをお勧めします。
	パスワード	ユーザのパスワード。‡	
	[新規ユーザの情報] ボタン	[新規ユーザ情報] 行を参照。	
新規ユーザの 情報	ドメインまたはサーバ	ローカルサーバの名前。	
	グループ	管理人	
	ユーザ名	ユーザの名前。	
	パスワード	ユーザのパスワード。	会社の方針に準拠します。
	パスワードの確認	パスワードの確認。	

設定ファイルとそれに関連したパラメータを以下の表に示します。

重要: 以下の設定テーブルで、いずれのエントリに対してもダブルバイト文字を割り当てないでください。

注: * マークが付いているパラメータの値は、一重引用符で始まり、円記号と一重引用符で終わる必要があります (例: 'C:¥Temp¥')。

設定ファイル	パラメータ	デフォルト値	特記事項
Config_Ini.ini	ORGANIZATION_NAME	組織名	組織名に特殊文字 (& など) が含まれている場合は、その特殊文字の前に ^ 文字を挿入します (たとえば、AB&C の場合は、「AB^&C」と表記します)。
	TEMPLATE_PATH*	'<インストールディレクトリ>¥Export Templates¥'	エクスポートテンプレートフォルダの場所
	BOOKLET_TEMPLATE_PATH*	'<インストールディレクトリ>¥Booklet Templates¥'	ブックレットテンプレートフォルダの場所
	WEB_SERVER	Web サーバの名前	
	DB_NAME		
	OBLICORE_USER		
	OBLICORE_PASS	Oblicore	データベースにおける CA Business Service Insight ユーザパスワード
	MPX_CONFIGURATION_DIRECTORY*	'<インストールディレクトリ>¥Packages¥Configuration¥'	パッケージ設定フォルダの場所
	MPX_INPUT_DIRECTORY*	'<インストールディレクトリ>¥Packages¥'	パッケージ入力フォルダの場所

設定ファイル	パラメータ	デフォルト値	特記事項
	MPX_LOG_DIRECTORY*	'<インストールディレクトリ>¥Packages¥Log¥'	パッケージログフォルダの場所
	MPX_OUTPUT_DIRECTORY*	'<インストールディレクトリ>¥Packages¥'	パッケージ出力フォルダの場所
	MPX_TEMP_DIRECTORY*	'<インストールディレクトリ>¥Packages¥Temp¥'	パッケージ一時フォルダの場所

アップグレードの完了

アップグレードを完了するには、以下のタスクを実行します。

重要: CA Business Service Insight をアップグレードした後に **sadmin** としてログインします。デフォルトのパスワードは「**sadmin**」です。

次の手順に従ってください:

1. すべてのサーバを再起動します。
2. IIS Manager で、Web サーバを起動します。
3. (オプション)パブリック シノニムからプライベート シノニムに変更するには、データベースで以下のいずれかのプロシージャを呼び出します。

```
begin  
prc_recreate_all_synonyms ('YES');  
end
```

または

```
exec prc_recreate_all_synonyms ('YES');
```

4. (オプション)データベースで **oblidbadmin** アカウントをロックします。データベースに接続し、以下のコマンドを実行します。

```
alter user oblidbadmin account lock;
```

5. (オプション) **oblidbadmin** パスワードを変更します。データベースに接続し、以下のコマンドを実行します。

```
alter user oblidbadmin identified by '<new_password>';
```

6. 選択したタイムゾーンに時間オフセットが一致することを確認します。
7. 夏時間の日付がお住まいの場所に一致することを確認します。

これで CA Business Service Insight が最新のバージョンになりました。

プロキシプレフィックスの更新

リバースプロキシが CA Web サイトに転送するリクエストをサポートするには、`web.config` ファイルの「AppSettings」セクションでプレフィックス文字列を `ProxyPrefix` キー値として入力します。このプレフィックス文字列は、プロキシ設定で CA Web サイトにリクエストをルーティングするように設定されています。

1. Web サイトがリバースプロキシに正しくルーティングされることを確認します。プロキシ値のスペルが正しく、2つのスラッシュ間に入力されていること（`"/prefix/"`）を確認します。

たとえば、CA Web サイトにマッピングされているプレフィックスが「ca」の場合、`web.conf` を以下のように更新します。

```
<appSettings>
<add key="ProxyPrefix" value="/ca/" />
</appSettings>
```

`ProxyPrefix` キーが存在しない場合やその値が空の文字列の場合、Web サイトは標準モードで動作します。

2. プロキシ設定にヘッダを追加します。以下のヘッダキーを使用します。

「X-Forwarded-CA-Oblicore-Proxy」

API の更新

8.1 より前のバージョンの API コードを使用するには、API インターフェースを更新します。

注: 詳細については、「CA Business Service Insight SDK Guide」の「API Backwards Compatibility」を参照してください。

次の手順に従ってください:

1. 8.3 の WSDL を使用し、契約サービス、ポートフォリオサービス、リポジット サービスのプロキシクラスを作成します。最後のインストールからの WSDL を 8.0 より前のバージョンに使用します。
2. API コードを再コンパイルします。

注: コンパイルエラーがある場合、手動で変更する必要があるコードを探します。新しい API に加えられた変更 (フィールドの順序や型) に従ってコードを更新します。これらを変更した後で API コードを再コンパイルします。

第 7 章: 旧バージョンからのアップグレード

CA Business Service Insight の現在のアップグレードは、7.0 SP1 以降のバージョンからのアップグレードをサポートしています。バージョン 7.0 およびすべての旧バージョンからのアップグレードについては、以下のプロセスを使用します。

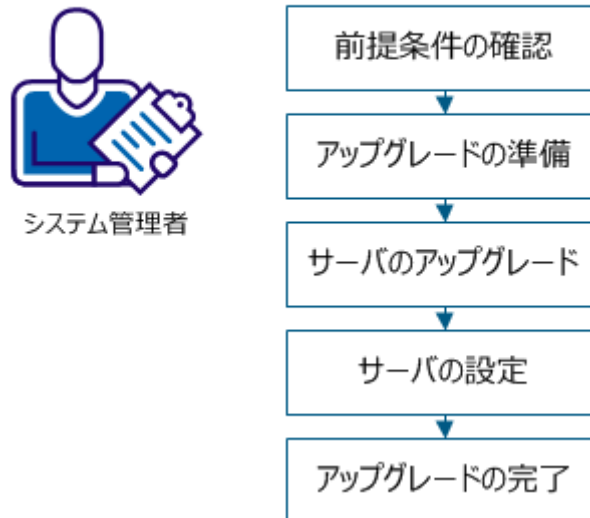
1. データベース ダンプを実行し、カスタマイズしたすべてのファイルをバックアップします。
2. クリーンインストールによって新バージョンをインストールします。
詳細については、「[CA Business Service Insight をインストールする方法 \(P. 23\)](#)」を参照してください。
3. データベースを新規インストールにマイグレートします。
4. (オプション) 古いブックレットを新しいデータベースにインポートするには、`bookletdocumentloader.exe` を実行します。
 - a. インストール CD のマイグレーションフォルダで実行可能ファイルを見つけます。
 - b. ファイルを実行します。
 - c. 画面上の指示に従います。

第 8 章：高可用性展開をアップグレードする方法

システム管理者には、CA Business Service Insight インストールをメンテナンスする責任があります。CA Business Service Insight を更新して最新の拡張機能および修正を実装します。

このシナリオを使用し、プロセスについて段階的に説明します。

高可用性の展開のアップグレード方法



1. [前提条件の確認](#) (P. 86)
2. [アップグレードの準備](#) (P. 75)
3. [サーバのアップグレード](#) (P. 87)
4. [サーバの設定](#) (P. 90)
5. [アップグレードの完了](#) (P. 80)

前提条件の確認

アップグレードの実行が可能であることを確認するには、以下の前提条件を確認します。

- CA Business Service Insight バージョン 7.0 SP1 以降がインストールされている。
- SYSDBA アクセス権限がある。
- データベースの各テーブルスペースに少なくとも 15 パーセントの未割当領域があること。

注: autoextend がオンになっている場合、データ ファイルの maxsize がデータファイルの現在のサイズの少なくとも 15 パーセント以上になっていることを確認します。

- データベース テーブルスペースが含まれる各物理デバイスの未割当領域が、デバイスのすべてのテーブルスペースの合計サイズの少なくとも 15 パーセントであること。
- Oracle OLEDB Provider がアプリケーション サーバおよび Web サーバにインストールされている。
- データベース ダンプが実行され、カスタマイズしたすべてのファイルがバックアップされている。

アップグレードの準備

アップグレードを確実に成功させるには、アップグレードを開始する前に以下のタスクを実行します。

次の手順に従ってください:

1. 英語でない地域言語設定を使用している場合、英語（米国）にそれを変更します。

注: アップグレードに別の言語設定を使用した場合、エラーを引き起こす可能性があります。

2. すべての Oblicore サービスを停止します。
3. IIS Manager で、Web サーバを停止します。

重要: WWW サービスまたは IIS Admin サービスを停止しないでください。

4. 分散トランザクションコーディネータ サービスを開始します。

注: このサービスが必要なのは、アップグレード時のみです。

5. `oblicore_privs.sql` を実行します。このスクリプトは、インストール CD の `SetupDB¥Migration` フォルダ内にあります。

注: db 所有者アカウントが `oblicore` でない場合は、`.sql` ファイルを更新して db 所有者アカウントに権限を付与します。

6. `job_queue_processes` パラメータが `Init.ora` ファイルで 2 に設定されていることを確認します。

サーバのアップグレード

CA Business Service Insight をアップグレードするには、各サーバに `Cloud_Insight_Server_8.3.exe` をコピーして、必要なアップグレードタスクを実行します。

アプリケーション サーバのアップグレード

次の手順に従ってください:

1. 最初のアプリケーション クラスタ サーバ ノードに接続します。
2. クラスタ アドミニストレータ プログラムを開きます。
3. [操作] で、[クラスタへの接続を開く] を選択します。
4. [クラスタまたはサーバ名] で、アプリケーション クラスタ名を選択して [OK] をクリックします。
5. クラスタ グループおよび共有フォルダ上で、最初のアプリケーション クラスタ ノードがすべての **Oblicore** サービスの所有者であることを確認します。
6. 各 **CA Business Service Insight** サービスのクラスタ化グループを右クリックして、[オフラインにする] (**Take Offline**) をクリックします。
7. 共有フォルダを右クリックして、[オフラインにする] (**Take Offline**) をクリックします。
8. クラスタ グループがオンラインであり、最初のアプリケーション クラスタ ノードが所有者であることを確認します。
9. **Cloud_Insight_Server_8.3.exe** を実行し、ウィザードに従ってアップグレードします。

注: 詳細については、「[CA Business Service Insight のアップグレード \(P. 76\)](#)」を参照してください。

10. 最初のアプリケーション クラスタ サーバ ノードを再起動します。
11. 各アプリケーション クラスタ サーバ ノードに対して手順 5 ~ 10 を繰り返します。現在のクラスタ ノードが所有者であることを確認します。

Web サーバのアップグレード

次の手順に従ってください:

1. 最初の Web サーバ ノードに接続します。
2. `Cloud_Insight_Server_8.3.exe` を実行し、ウィザードに従ってアップグレードします。

注: 詳細については、「[CA Business Service Insight のアップグレード \(P. 76\)](#)」を参照してください。

3. 最初の Web サーバ ノードを再起動します。
4. 各 Web サーバ ノードで手順 1～3 を繰り返します。

アダプタ サーバのアップグレード

このセクションでは、CA Business Service Insight アダプタ サーバをアップグレードする方法について説明します。

次の手順に従ってください:

1. 最初のアダプタ クラスタ サーバ ノードに接続します。
2. クラスタ アドミニストレータ プログラムを開きます。
3. [操作] で、[クラスタへの接続を開く] を選択します。
4. [クラスタまたはサーバ名] で、アダプタ クラスタ名を選択して [OK] をクリックします。
5. クラスタ グループおよび共有フォルダ上で、最初のアダプタ クラスタ ノードがすべての Oblicore サービスの所有者であることを確認します。
6. クラスタ グループおよび共有フォルダがオンラインであることを確認します。
7. すべてのアダプタ サービスをオフラインにします。
8. `Cloud_Insight_Server_8.3.exe` を実行し、ウィザードに従ってアップグレードします。

分散トランザクション コーディネータ サービスが開始されていないというメッセージが表示される場合がありますが、無視してください。

注: 詳細については、「[CA Business Service Insight のアップグレード \(P. 76\)](#)」を参照してください。

9. 最初のアダプタ クラスタ サーバ ノードを再起動します。
10. 各アダプタ クラスタ サーバ ノードで手順 2 ～ 9 を繰り返します。現在のクラスタ ノードが所有者であることを確認します。

サーバの設定

操作を続行するには、サーバを設定します。

アプリケーション サーバの設定

次の手順に従ってください:

クラスタで動作する MSMQ の設定

1. 各 CA Business Service Insight アプリケーション サーバ ノードで、[プライベート キュー] ストレージフォルダ内のすべてのキューを削除します。
2. MSTDC リソースがクラスタ化されていることを確認します。
3. クラスタ アドミニストレータ プログラムを開くことにより、MSMQ リソースおよびグループ (仮想サーバ) の作成および設定を行います。
4. [操作] で、[クラスタへの接続を開く] を選択します。
5. [クラスタまたはサーバ名] で、アプリケーション クラスタ名を選択します。
6. コンソール ツリー内で、[クラスタ グループ] をクリックします。

MSMQ リソースの追加

1. [ファイル] - [新規] - [リソース] をクリックします。
新しいリソース ウィザードが開きます。
2. [名前] に「クラスタ化 MSMQ」と入力します。
3. [メッセージキュー] を選択し、[次へ] をクリックします。
4. [実行可能な所有者] ページで、[次へ] をクリックします。
5. [依存関係] (Dependencies) ページの利用可能なリソースの下から、タイプがネットワーク名のリソースを選択して [追加] をクリックします。

6. ディスク S (タイプが物理ディスクのリソース) を選択し、[追加] をクリックします。
7. [完了] をクリックします。
8. 「クラスタ化 MSMQ」リソースをオンラインにします。

一般リソースの追加

1. コンソール ツリー内で、[クラスタ グループ] をクリックします。
2. [ファイル] - [新規] - [リソース] をクリックします。
新しいリソース ウィザードが開きます。
3. [名前] に「クラスタ化コンピュータの管理」と入力します。
4. [汎用アプリケーション] (Generic Application) を選択し、[次へ] をクリックします。
5. [実行可能な所有者] ページで、[次へ] をクリックします。
6. [依存関係] (Dependencies) ページの利用可能なリソースの下から、タイプがネットワーク名のリソースを選択して [追加] をクリックします。
7. クラスタ化 MSMQ リソースを選択し、[追加] をクリックします。
8. [次へ] をクリックします。
9. [コマンドライン] に「mmc compmgmt.msc」と入力します。
10. [現在のディレクトリ] (Current Directory) に「%windir%\system32」と入力します。
11. [ネットワーク名をコンピュータ名に使用する] (Use Network Name for the computer name) および [デスクトップとの対話をアプリケーションに許可する] を選択します。
12. [次へ] をクリックして、[完了] をクリックします。
13. 「クラスタ化コンピュータの管理」リソースをオンラインにします。

注: MSMQ の詳細については、Microsoft の Web サイトを参照してください。

内部リソースの追加

注: ほとんどのリソースは存在しますが、古いグループ名が付いています。グループを改訂して、新規インストールの名前と同じ名前にします。

1. [ファイル] - [新規] - [リソース] をクリックします。
2. 以下のリソースを追加します。
 - Oblicore - Tomcat 6
 - Oblicore - ACE2 on JBoss アプリケーション サーバ
 - Oblicore - アダプタ リスナ
 - Oblicore - アラート
 - Oblicore - ダッシュボード
 - Oblicore - ログ サーバ
 - CA Business Service Insight - サービス FQDN
 - Oblicore - PenaltyWriter
 - Oblicore - ScriptHost
 - Oblicore - タスク ホスト
 - CA Business Service Insight - サービス パブリック クラスタ IP
 - Oblicore - ReportsScheduler
3. Oblicore - Current_Status_Engine リソースを CA Business Service Insight-現在のステータス グループに追加します。
4. Oblicore - PSLWriter リソースを CA Business Service Insight-ACE1 Writer グループに追加します。
5. Oblicore - Current_Status_Engine リソースを CA Business Service Insight-ACE2 Worker に追加します。
6. Oblicore - PslWorker1 リソースを CA Business Service Insight - ACE2 Worker グループに追加します。
7. すべてのリソースをオンラインにします。

Web サーバの設定

注: ネットワーク負荷分散を作成するには、Microsoft TechNet ガイドの手順 ([http://technet.microsoft.com/en-us/library/cc754833\(WS.10\).aspx](http://technet.microsoft.com/en-us/library/cc754833(WS.10).aspx)) に従います。

次の手順に従ってください:

1. [プログラムファイル] - [Oblicore] に移動します。
2. ブックレットテンプレート フォルダ、エクスポートテンプレート フォルダ、およびパッケージフォルダを Web 共有フォルダにコピーします。
3. ブックレットパスを更新します。

注: デフォルトでは、GUI で [ブックレットパス] を編集できません。
t_system_configurations 内のパラメータを更新するか、
Changeable_in_gui を Y に設定します。

アダプタ サーバの設定

次の手順に従ってください:

1. 最初の CA Business Service Insight アダプタ クラスタ サーバ ノードに接続します。
2. クラスタ アドミニストレータ プログラムを開きます。
3. [パラメータ] タブ内の Oblicore - AdapterDeployment サービス名を AdapterDeployment に変更します。

4. ¥Program Files¥Oblicore¥Adapters に移動し、展開したアダプタ フォルダをクラスタ化共有フォルダ (ディスク S) のアダプタ フォルダにコピーします。

注: アダプタ パスがクラスタ ドライブ上の正しいアダプタ フォルダパスを指していることを確認します。

5. 各アダプタ クラスタ サーバ ノードで、レジストリ エディタを開き、[HKEY_LOCAL_MACHINE] - [SOFTWARE] - [Oblicore] - [アダプタ] に移動します。 AdaptersDir 文字列に値 S:¥Adapters が含まれることを確認します。
6. すべてのアダプタ サービスをオンラインにします。

アップグレードの完了

アップグレードを完了するには、以下のタスクを実行します。

重要: CA Business Service Insight をアップグレードした後に **sadmin** としてログインします。デフォルトのパスワードは「**sadmin**」です。

次の手順に従ってください:

1. すべてのサーバを再起動します。
2. IIS Manager で、Web サーバを起動します。
3. (オプション)パブリック シノニムからプライベート シノニムに変更するには、データベースで以下のいずれかのプロシージャを呼び出します。

```
begin  
prc_recreate_all_synonyms ('YES');  
end
```

または

```
exec prc_recreate_all_synonyms ('YES');
```

4. (オプション)データベースで **oblidbadmin** アカウントをロックします。データベースに接続し、以下のコマンドを実行します。

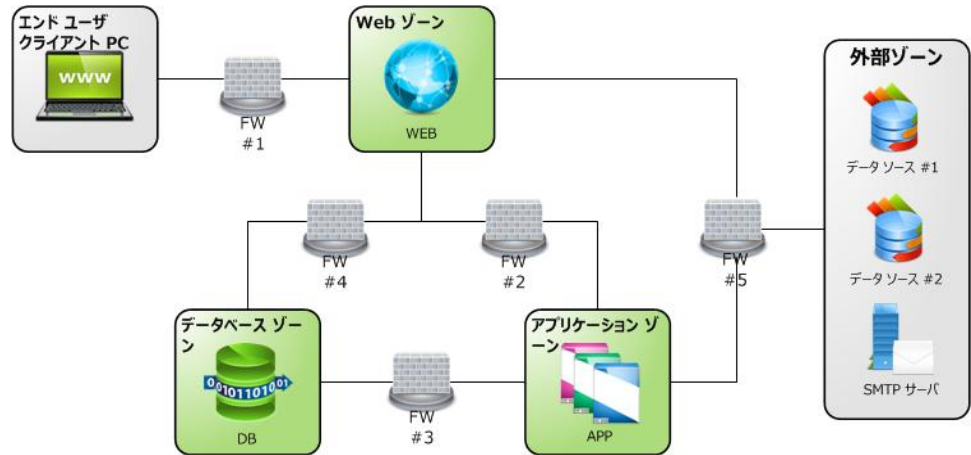
```
alter user oblidbadmin account lock;
```
5. (オプション) **oblidbadmin** パスワードを変更します。データベースに接続し、以下のコマンドを実行します。

```
alter user oblidbadmin identified by '<new_password>';
```
6. 選択したタイムゾーンに時間オフセットが一致することを確認します。
7. 夏時間の日付がお住まいの場所に一致することを確認します。

これで CA Business Service Insight が最新のバージョンになりました。

付録 A: 通信プロトコルの概要

CA Business Service Insight は多層アプリケーションであり、展開できるサーバ数に制限はありません。ほとんどの展開で標準の 3 層モデルが使用され、さまざまな理由により物理サーバ間にファイアウォールが設置されているケースが多く見られます。ファイアウォールを設定して、CA Business Service Insight コンポーネント間の通信を可能にします。



プロセス/コンポーネント

以下の表に、ゾーン間で通信するプロセスおよびコンポーネントを示します。

ゾーン	プロセス/コンポーネント	メモ
Web	IIS Web サーバ	クライアントブラウザに Web コンテンツを提供し、データベースからデータを取得します。
	COM+ コンポーネント	DB に対してアクションを実行し、データを取得して、SMTP メッセージを送信します。

	API	受信 Web サービス リクエストを処理します。
	認証サービス (SSO/LDAP)	外部認証リクエストを処理します。
アプリケーション	アダプタ リスナ サービス	アダプタ インスタンスからの受信アダプタ接続を処理します。
	アダプタ展開サービス	ローカルに展開される管理対象アダプタを展開および制御します。
	ログ サーバ	BSI COM+ コンポーネントおよびアプリケーション サービス (TaskHost やアラートなど) からのすべての受信メッセージをログ記録します。
	ダッシュボード サービス	ダッシュボード コンポーネントのステータスおよび結果を更新します。
	PSL エンジン	すべてのサービス レベル結果を計算し、他の依存アプリケーション サービス (ダッシュボード、アラートなど) の情報を提供します。
	レポート スケジューラ サービス アラート サービス (SMTP)	アプリケーション サーバから SMTP メッセージを送信します。
	アダプタ インスタンス	データ ソースに接続し、アダプタ リスナ サービスによって Raw データの収集を処理します。
データベース	Oracle データベース	すべてのアプリケーション データを格納および管理します。
	データベース リスナ	データベースへの受信接続を処理します。

外部	アダプタ インスタンス	データ ソースに接続し、アダプタ リスナ サービスによって Raw データの収集を処理します。
	アダプタ展開サービス	リモートで展開される管理対象アダプタを展開および制御します。このサービスは、リモートで展開される各アダプタと同じマシン上に展開する必要があります。

ポートおよびプロトコル

以下の表に、CA Business Service Insight プロセスおよびコンポーネント用のポートおよびプロトコルを示します。

プロセス(ソース)	FW #	デスティネーション	プロトコル	デフォルトポート	方向	変更可能
Web ゾーンから発信						
IIS Web サーバ	#2	ログ サーバ (アプリケーション サーバ)	TCP	4040	送信	はい
IIS Web サーバ	#2	アダプタ展開 サービス (アプリケーション サーバ)	TCP	1008	両方	はい
IIS Web サーバ	#2	ダッシュボード サービス (アプリケーション サーバ)	.NET リモート処理	8004	両方	はい
IIS Web サーバ	#5	認証サービス/サーバ (外部)	SOAP/HTTP	4515	両方	はい
IIS Web サーバ 電子メール	#5	SMTP サーバ (外部)	SMTP	25	送信	いいえ

COM+ コンポーネント	#4	データベースサーバ	TCP (SQL*Net)	1521	両方	はい
アプリケーションゾーンから発信						
レポートスケジューラおよびアラートサービス	#5	SMTP サーバ (外部)	SMTP	25	送信	いいえ
すべての保証サービス (アラート、ダッシュボードなど)	#3	データベースサーバ	TCP (SQL*Net)	1521	両方	はい
アダプタ (ローカルでホスト)	#5	外部データソース	TCP/ファイル	アプリケーション定義**	両方	はい
アダプタ (リモートでホスト)	#5	外部データソース	TCP	ユーザ定義**	両方	はい
アダプタリスナ	#5	リモートアダプタインスタンス	TCP	ユーザ定義**	両方	はい
外部ゾーンから発信						
クライアント PC (外部)	#1	IIS (Web サーバ)	HTTP (または HTTPS)	80 (443)	両方	はい
アダプタインスタンス (リモートでホスト)	#5	アダプタリスナ (アプリケーションサーバ)	TCP	ユーザ定義**	両方	はい
外部コールアプリケーション/マシン	#5	API サービス (Web サーバ)	SOAP/HTTP	80	両方	はい

その他						
MSMQ (Microsoft メッセージ キュー)			TCP	1801		
			RDP	135, 2101/2112, 2103/2114, 2105/2116		
			UDP	3527, 1801		
ACE II (Aggregation and Correlation Engine)				4073, 1298, 1299, 8283, 4744, 4645, 3728, 19201, 1361, 1363, 8293, 8280, 1300, 5546, 4657		
ACE II コンテ ンツ転送				3973, 1198, 1199, 8183, 4544, 4545, 1200, 1201, 4548, 3628, 19101, 1261, 1262, 8193, 8180, 5546, 4557		
Tomcat				8007 標準 ポート		
SOI/SSA (Tomcat を 含む Web サーバ)		SOI サーバ	TCP	7090		
Oblisync		CA Business Service Insight イ ンストール	TCP	8180		

** アダプタは、関連するデータ ソース、SQL またはファイルベースのアクセスの要件に基づいて外部アプリケーションに接続する必要があります。

++ アダプタは CA Business Service Insight で定義されたポートによって通信します。デフォルトでは、アダプタ ウィザードは、6201 より上位のポートを自動的に割り当てます。アダプタ インスタンスまたはアダプタ リスナのいずれかから開始する通信を設定します（アダプタからリスナ、またはリスナからアダプタ）。ポートは、ポートトリガ機能を使用するファイアウォール設定では重要な場合があります。

開発およびサポート用のアクセスを提供し、ソース データ ファイルの転送を有効にする、オプションのポートおよび通信を以下の表に示します。

プロセス (ソース)	FW#	デスティネーション	プロトコル	デフォルトポート	方向	変更可能
外部ゾーンから発信						
クライアント PC (外部) - リモートデスクトップ	#1	Web サーバおよびアプリケーションサーバ	RDP	3389	両方	はい
クライアント PC (外部) - ファイルシステム/共有 ++	#1	Web サーバおよびアプリケーションサーバ	IP 経由の Netbios/Samba	137, 138, 139, 445	両方	はい
クライアント PC (外部) - FTP/SFTP **	#1	Web サーバおよびアプリケーションサーバ	FTP/SFTP	21/22	両方	はい

** FTP および SFTP では、CA Business Service Insight に含まれない個別のアプリケーションソフトウェアのインストールが必要です。SFTP は、一般的にポート 22 上の SSH を通じて実行されます。

++ これらのポートは、マシンのファイルシステムへのアクセスを有効にします。潜在的なセキュリティホールを開くことになるため、信頼できる領域にのみ公開する必要があります。

付録 B: CA Business Service Insight データベースを Linux プラットフォームにインストールする方法

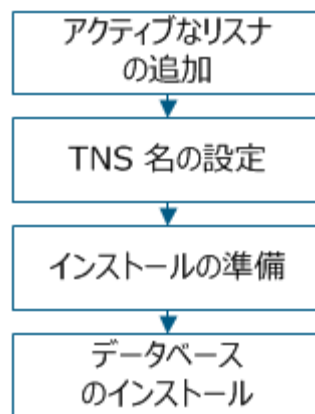
システム管理者には、CA Business Service Insight のデータベースを準備する責任があります。このシナリオでは、Oracle サーバの標準設定について説明します。RAC などの特定の設定については、このシナリオで例を示します。詳細については、Oracle のドキュメントを参照するか、Oracle にお問い合わせください。

このシナリオを使用してプロセスについて説明します。

CA Business Service Insight データベースを Linux プラットフォームに インストールする方法



システム管理者



1. [アクティブなリスナの追加](#) (P. 104)
2. [TNS 名の設定](#) (P. 105)
3. [インストールの準備](#) (P. 107)
4. [データベースのインストール](#) (P. 109)

アクティブなリスナの追加

アクティブなリスナがない場合は、リスナを作成して設定します。

次の手順に従ってください:

1. Oracle Net Configuration Assistant を起動します。
2. [リスナ設定] (Listener configuration) を選択します。
3. [追加] を選択し、[次へ] をクリックします。
4. 「LISTENER」と入力して [次へ] をクリックします。
5. TCP を [選択済みプロトコル] に移動して、[次へ] をクリックします。
6. [標準ポート番号 1521 を使用] を選択して、[次へ] をクリックします。

アクティブなリスナが作成されます。

7. Oracle Net Manager でリスナがアクティブであることを確認します。

TNS 名の設定

CA Business Service Insight データベースの作成を有効にするには、ローカル ネット サービス名を設定します。

次の手順に従ってください:

1. Oracle Net Configuration Assistant を起動します。
2. [ローカル ネット サービス名の設定] (Local Net Service Name configuration) を選択し、[次へ] をクリックします。
3. [追加] を選択し、[次へ] をクリックします。
4. [サービス名] に「oblicore」と入力し、[次へ] をクリックします。
5. 通信用に [TCP] を選択して [次へ] をクリックします。
6. [ホスト名] で Oracle サーバの名前を指定して、[標準ポート番号 1521 を使用] を選択し、[次へ] をクリックします。
7. [テストしません] (No, do not test) を選択して [次へ] をクリックします。
8. [ネット サービス名] に「oblicore」と入力し、[次へ] をクリックします。
9. [次へ] をクリックします。

TNSname.ora が /opt/oracle/product/11.2/DB_1/network/admin 以下に作成されます。

10. TNS 名がアクティブであることを確認するには、以下のコマンドを実行します。

```
TNSping Oblicore
```

以下の例に、予期される出力を示します。

```
TNS Ping Utility for Linux: Version 11.2.0.1.0 - Production on 21 - AUG - 2013  
15:31:07
```

```
Copyright (c) 1997, 2009, Oracle. All rights reserved.
```

```
Used parameter files:
```

```
/opt/oracle/product/11.2/DB_1/network/admin/sqlnet.ora
```

```
Used TNSNAMES adapter to resolve the alias
```

```
Attempting to contact (SESCRIPTION = (ADDRESS = (Protocol = TCP) (HOST = 6201 -  
lab350- sp) (PORT = 1521))) (CONNECT_DATA = (SERVICE_NAME = oblicore)))  
OK (10 msec)
```

```
oracle@6201 - LAB350- SP:/Download/Setup/InstallDB>
```

インストールの準備

インストール用のディレクトリを準備するには、以下のタスクを実行します。

次の手順に従ってください:

1. ディレクトリ `SetupDB` をインストール CD の `¥Server¥program files¥CA¥Cloud insight¥` から Linux ファイル システムの `/Software` にコピーします。
2. 以下のコマンドを実行します。

- ログ用のディレクトリを作成する。

```
Mkdir -p /Software/SetupDB/InstallDB/Log
```

- インストール スクリプト ファイルにアクセスする権限を Oracle ユーザに付与する。

```
Chown -R oracle:oinstall /Software/SetupDB
```

3. ファイルを `dOS` 形式から `UNIX` に変換します。
 - a. `/InstallDB` に `BSI-conv.sh` を作成します。
 - b. 以下のコードをコピーします。

```
#!/bin/bash
dos2unix_recursive()
{
for file in "$1"/*; do
    if [ ! -d "$file" ]; then
        if [ ! -L "$file" ]; then
            echo Convert $file to Unix format...
            dos2unix $file $file
        fi
    else
        if [ ! -L "$file" ]; then
            dos2unix_recursive $file
        fi
    fi
done
}
```

```
dos2unix_recursive "$PWD"
chmod -R +rx *.sh
```

- c. バッチ ファイルを実行します。

4. ディレクトリ `/oracle/oblicore` が存在することを確認します。存在しない場合は作成します。
5. `/Software/SetupDB/InstallDB/` にある `start_parameters.ini` を編集します。

例：

```
[DataBaseDetails]
OBLICORE_ROOT=/oracle/Oblicore
DB_NAME=oblicore
ORACLE_HOME=/opt/oracle/product/11.2/DB_1
ORACLE_VERSION =11
DB_SIZE= large
SYS_PASS=sys
OBLICORE_USER=oblicore
OBLICORE_PASS=oblicore
OBLIDBADMIN_PASS=oblidbadmin
DB_CHARSET=utf8
DB_SYNONYM=public
```

データベースのインストール

CA Business Service Insight 用のデータベースを用意するには、データベースをインストールします。

次の手順に従ってください:

1. SetupDB¥InstallDB があるディレクトリに移動して、以下のコマンドでスクリプトファイルを実行します。

```
sh Main.sh
```

[コマンドラインターミナル] が開きます。

2. ターミナルの指示に従います。以下の設定をお勧めします。
 - 文字セットは UTF8 を使用する。
 - データベース シノニムをパブリックに設定する。
3. データベースのパラメータを確認し、データベースの作成を続行します。

TNSNAME および Database oblicore の作成が開始されます。このプロセスは 10 分以上かかる場合があります。

4. (オプション) 作成ログを表示するには、
/Softwar/SetupDB/InstallDB/Log でファイルを見つけます。
データベースが使用可能になります。

付録 C: MS Word アドオンのインストール

MS Word で [CA BSI] タブの機能を使用するには、MS Word アドオンをインストールします。

注: インストール ウィザードには .NET 4 が必要です。

次の手順に従ってください:

1. CA Business Service Insight インストール フォルダの CA BSI Booklet Addon.exe をダブルクリックします。
2. 指示に従ってインストールを完了します。
3. Word を起動します。

[CA BSI] タブがリボンに表示されます。

付録 D: CA Technologies のデータベース オブジェクト用の命名規則ポリシー

CA Technologies の命名規則ポリシーに関するチェックリストを以下の表に示します。データベースの命名規則が CA Technologies のポリシーと異なる場合、別の命名規則を使用して適切な行に入力します。インストールを実行する前に、CA Support 部門にお問い合わせください

CA の命名規則	お客様の命名規則
テーブルスペース	
TBS_ACE_DATA_TAB_01	
TBS_ACE_INDEX_TAB_01	
TBS_CSL_DATA_TAB_01	
TBS_CSL_INDEX_TAB_01	
TBS_DASH_DATA_01	
TBS_DASH_INDEX_01	
TBS_LOB_DATA_01	
TBS_OBL_DATA_01	
TBS_OBL_INDEX_01	
TBS_PSL_DATA_TAB_01	
TBS_PSL_INDEX_TAB_01	
TBS_OBLIDBADMIN_01	
TBS_SLA_DATA_01	
TBS_SLA_DATA_02	
TBS_SLA_INDEX_01	
TBS_SLA_INDEX_02	
TBS_SMI_DATA_TAB_01	
TBS_SMI_INDEX_TAB_01	
TBS_SMIANA_DATA_TAB_01	
TBS_SMIANA_INDEX_TAB_01	

CA の命名規則	お客様の命名規則
テーブルスペース	
CA Technologies ユーザ	
OBLICORE	
OBLIDBADMIN	
OBLIDBADMIN PRIVILEGES	
CONNECT TO OBLIDBADMIN	
UNLIMITED TABLESPACE TO OBLIDBADMIN	
EXECUTE ON DBMS_LOCK TO OBLIDBADMIN	
SELECT ANY DICTIONARY TO OBLIDBADMIN	
CREATE PUBLIC SYNONYM TO OBLIDBADMIN	
DROP PUBLIC SYNONYM TO OBLIDBADMIN	
CREATE ANY SYNONYM TO OBLIDBADMIN	
DROP ANY SYNONYM TO OBLIDBADMIN	
CREATE TABLE TO OBLIDBADMIN	
CREATE VIEW TO OBLIDBADMIN	
CREATE SEQUENCE TO OBLIDBADMIN	
ROLE_USR_REG_PRIVS TO OBLIDBADMIN WITH ADMIN OPTION	
ALTER DATABASE TO OBLIDBADMIN	
ALTER SESSION TO OBLIDBADMIN	
EXECUTE ANY PROCEDURE TO OBLIDBADMIN	
SELECT ANY TABLE TO OBLIDBADMIN	
GRANT ANY OBJECT PRIVILEGE TO OBLIDBADMIN	
GRANT ANY PRIVILEGE TO OBLIDBADMIN	
CREATE TABLESPACE TO OBLIDBADMIN	
ALTER TABLESPACE TO OBLIDBADMIN	
DROP TABLESPACE TO OBLIDBADMIN	
CREATE USER TO OBLIDBADMIN	

CA の命名規則	お客様の命名規則
テーブルスペース	
ALTER USER TO OBLIDBADMIN	
DROP USER TO OBLIDBADMIN	
CREATE ROLE TO OBLIDBADMIN	
ALTER ANY ROLE TO OBLIDBADMIN	
DROP ANY ROLE TO OBLIDBADMIN	
CREATE ANY TABLE TO OBLIDBADMIN	
ALTER ANY TABLE TO OBLIDBADMIN	
DROP ANY TABLE TO OBLIDBADMIN	
CREATE ANY INDEX TO OBLIDBADMIN	
ALTER ANY INDEX TO OBLIDBADMIN	
DROP ANY INDEX TO OBLIDBADMIN	
CREATE ANY PROCEDURE TO OBLIDBADMIN	
ALTER ANY PROCEDURE TO OBLIDBADMIN	
DROP ANY PROCEDURE TO OBLIDBADMIN	
CREATE ANY SEQUENCE TO OBLIDBADMIN	
ALTER ANY SEQUENCE TO OBLIDBADMIN	
DROP ANY SEQUENCE TO OBLIDBADMIN	
CREATE ANY TRIGGER TO OBLIDBADMIN	
ALTER ANY TRIGGER TO OBLIDBADMIN	
DROP ANY TRIGGER TO OBLIDBADMIN	
CREATE ANY TYPE TO OBLIDBADMIN	
DROP ANY TYPE TO OBLIDBADMIN	
CREATE ANY VIEW TO OBLIDBADMIN	
DROP ANY VIEW TO OBLIDBADMIN	
USRACE	
USRCSL	
USRDASH	

CA の命名規則	お客様の命名規則
テーブルスペース	
USREDR	
USRMTN	
USRPSL	
USRRPT	
USRSLA	
OBLICORE PRIVILEGES	
CONNECT TO OBLICORE	
UNLIMITED TABLESPACE TO OBLICORE	
EXECUTE ON DBMS_LOCK TO OBLICORE	
SELECT ANY DICTIONARY TO OBLICORE	
CREATE PUBLIC SYNONYM TO OBLICORE	
DROP PUBLIC SYNONYM TO OBLICORE	
CREATE ANY SYNONYM TO OBLICORE	
DROP ANY SYNONYM TO OBLICORE	
CREATE TABLE TO OBLICORE	
CREATE VIEW TO OBLICORE	
CREATE SEQUENCE TO OBLICORE	
CREATE SESSION TO USRCSL	
ROLE_USR_REG_PRIVS TO USRCSL	
CREATE SESSION TO USRDASH	
ROLE_USR_REG_PRIVS TO USRDASH	
CREATE SESSION TO USREDR	
ROLE_USR_REG_PRIVS TO USREDR	
CREATE SESSION TO USRMTN	
ROLE_USR_REG_PRIVS TO USRMTN	
CREATE SESSION TO USRPSL	
ROLE_USR_REG_PRIVS TO USRPSL	

CA の命名規則	お客様の命名規則
テーブルスペース	
CREATE SESSION TO USRRPT	
ROLE_USR_REG_PRIVS TO USRRPT	
CREATE SESSION TO USRSLA	
ROLE_USR_REG_PRIVS TO USRSLA	
OBLCORE ROLE	
ROLE_USR_REG_PRIVS	
PART_MNG_PKG	Raw データのパーティション化を目的としています。システムがこの機能を使用しない場合、実行する必要はありません。
DB_MNG_FORECAST_PKG	予測計算。システムがこの機能を使用しない場合、実行する必要はありません。この機能は、T_PSL (現在アクティブでない) でパーティション化を利用するために開発されたものであるため、現在は使用されていません。
DB_MTN_PKG.LOG_PURGE	t_log テーブルの内容の消去に対応します。
DB_MTN_PKG.COLLECT_STATS	データベース統計収集
PRC_T_INTER_REGISTRATIONS_FLAT	イベントの再利用性を活用して、メトリック間のすべての（直接および間接的な）関係を含むテーブルを構築します。イベントの再利用性が活用されている Raw データ レポートになります。